

10. 学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

(ア) 定員充足の見込み

・ 入学定員設定の考え方

入学定員設定の理由として、(1) 高校生の需要の状況、(2) 一般企業等の事業所における人材需要の状況の2点から説明する。

1) 高校生対象ニーズ調査による高校生の需要の状況

まず、高校生の新設学科に対する関心、需要の状況について、独自に実施した高校生対象アンケート調査における【問10】「あなたは人間関係学科に進学を希望したいと思いますか」をもとに説明したい。

この問いに対する回答 2,332 人のうち、「進学を希望したい」が 57 人 (2.44%)、「進学を一応考えてみたい」が 98 人 (4.20%)、「志願先の候補の一つとして考えてみたい」が 503 人 (21.57%) であった。アンケートの対象は、山形県内の高校2年生に絞り、各校に80人分を配布して実施したサンプル調査であるが、そのなかにおいて第1志望の可能性が高い「進学を希望したい」と第2希望となる可能性の高い「進学を一応考えてみたい」が合わせて155人となる。

また、このうちの「大学進学希望者のみ」の結果においては、「進学を希望したい」41人 (2.54%)、「進学を一応考えてみたい」75人 (4.64%)、「志願先の候補の一つとして考えてみたい」390人 (24.12%) となった。

この【問10】の回答結果に関して、アンケート調査は、山形県内の各高校のうち、2年生の文系クラス80人 (2クラス分) を対象としたサンプル調査であることから、実際に本学科を希望する可能性のある生徒数を割り出す分析を試みた。

まず、全体の回答のうち、「進学希望」、「一応考える (考慮)」、「候補の一つ」の回答者の実数から、回答した高校別の文系クラス数を推測し、アンケートを実施していないクラスの分も概算で算出し、推計結果を割り出した。

その結果、

「進学希望」=75人、「一応考える」=118人、「候補の一つ」=654人となった。

これに過去3年間の入学者の本学志望順位が第1希望以降それぞれのもの

のパーセンテージを割り出したもの（志望順位が、第1希望のもの54.2%、第2希望のもの25.4%、第3～5希望のもの17.3%）（表1）を「進学希望」（第1希望に相当）、「一応考える」（第2希望に相当）、「候補の一つ」（第3～5希望に相当）の回答者数にその割合をかけて（表2）、志望者の概算数値を取り出した。

【表1】過去3年間の入学者の本学志望順位が第2希望以降だった者のパーセンテージ

1. 入学生アンケートでの本学志望順位（既存：子ども教育学科）

Q.5 本学の志望順位はどのようなものでしたか

| 回答 | H28 | | H29 | | H30 | | 合計 | | |
|------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|-----|--------|---|
| | 人数 | 比率 | 人数 | 比率 | 人数 | 比率 | 人数 | 比率 | |
| 第一希望 | 48 | 55.8% | 55 | 61.1% | 38 | 45.2% | 141 | 54.2% | ① |
| 第二希望 | 21 | 24.4% | 19 | 21.1% | 26 | 31.0% | 66 | 25.4% | ② |
| 第三希望 | 9 | 10.5% | 8 | 8.9% | 12 | 14.3% | 29 | 11.2% | ③ |
| 第四希望 | 3 | 3.5% | 1 | 1.1% | 4 | 4.8% | 8 | 3.1% | |
| 第五希望 | 3 | 3.5% | 2 | 2.2% | 3 | 3.6% | 8 | 3.1% | |
| 無回答 | 2 | 2.3% | 5 | 5.6% | 1 | 1.2% | 8 | 3.1% | |
| | 86 | 100.0% | 90 | 100.0% | 84 | 100.0% | 260 | 100.0% | |

過去3年間の志望順位平均値

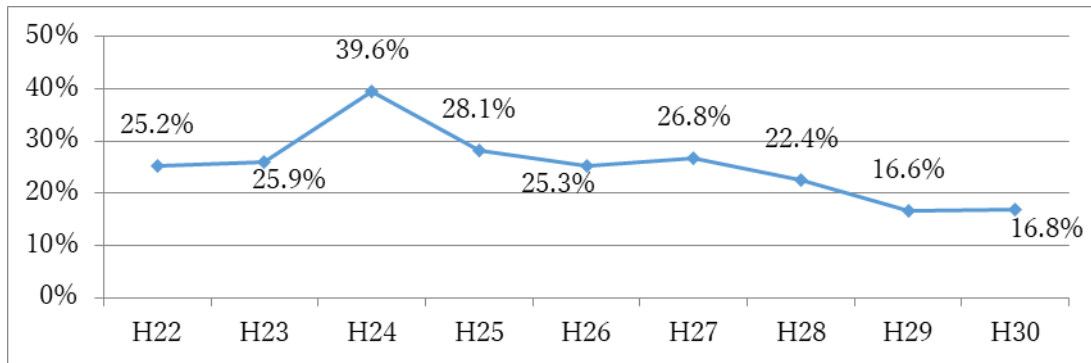
| 項目 | 比率 |
|---------|-------|
| ①第一希望 | 54.2% |
| ②第二希望 | 25.4% |
| ③第三～五希望 | 17.3% |

【表2】志願者数概算（アンケート概算数ベース：文系生徒数で概算）

| 項目 | アンケートより概算 | 志望順位平均値 | 志望者数概算 | 備考 |
|--------|-----------|---------|----------|---------------|
| 進学希望 | 75 | 54.2% | 40 | |
| 進学考慮 | 118 | 25.4% | 29 | |
| 進学先の一つ | 654 | 17.3% | 113 | |
| | | | (小計) 182 | 山形県のみ |
| | | | (合計) 214 | 県外からの想定受験者を含む |

また、さらに本学既存の子ども教育学科の県外からの受験者の想定比率(15%) (資料 3) から推定される県外総受験者数を予測した。なお、比率(15%)は低めに設定している。

【資料 3】 子ども教育学科 県外受験者比率



※この表から県外を 15%と想定する

その結果、山形県のみ受験者数は、最大で 182 人という結果となった。また、県外も含めると、最大で 214 人となった。最大で定員の約 3.5 倍の志願者を見込めるものという結果となった。(表 2)

しかし、上記は、あくまで最大の予測値であり、これとは異なる予測も考えている。【問 10】の大学進学希望者の回答に関して、【問 3】「進学後に学びたい学問分野は」の回答で「語学・文学関係」「心理学関係」「社会学・福祉学関係」を第 1 希望、第 2 希望としたものをクロスさせて、人間関係学科の教育研究分野に特化させた関心を持っているものを取り出すと、回答実数は、第 1 希望で「進学を希望したい」19 人、「進学を一応考えてみたい」42 人、「志願先の候補の一つとして考えてみたい」165 人となる。第 2 希望でも、同じ回答者の実数は、19 人、39 人、208 人となる。

これに上で行った予測と同様の計算を試みる。「進学を希望したい」を本学への第 1 志望入学者にあて、その割合 54.2%をかけ、「進学を一応考えてみたい」を第 2 志望入学者にあて、その割合 25.4%を、さらに「志願先の候補の一つとして考えてみたい」を第 3~5 志望入学者にあて、その割合 17.3%をそれぞれかけた数値を出してみると、人間関係学科の学問分野を第 1 希望とするものでは、10 人、10 人、28 人となり、合計でも 48 人となる。第 2 希望とするものでも、10 人、9 人、35 人となり、合計 54 人である。これに県外受験者比率(15%)を入れたとしても、第 1 希望 56 人、第 2 希望 63 人である。(表 4)

【表 4】クロス集計による志願者予測値

①大学進学者のうち本学新学科学問分野を第1希望としたもの

※乗算数については小数点以下切り捨て

| | 回答実数 | 志望順位 平均値 | 志望者数 概算 | 備考 |
|--------------------|------|-------------|------------|------|
| 進学を希望したい | 19 | 54.2% | 10 | |
| 進学を一応考えてみたい | 42 | 25.4% | 10 | |
| 志願先の候補の一つとして考えてみたい | 165 | 17.3% | 28 | |
| | | (小計) | 48 | |
| | | (合計) | 56 | 県外含む |

②大学進学者のうち本学新学科学問分野を第2希望としたもの

※乗算数については小数点以下切り捨て

| | 回答実数 | 志望順位 平均値 | 志望者数 概算 | 備考 |
|--------------------|------|-------------|------------|------|
| 進学を希望したい | 19 | 54.2% | 10 | |
| 進学を一応考えてみたい | 39 | 25.4% | 9 | |
| 志願先の候補の一つとして考えてみたい | 208 | 17.3% | 35 | |
| | | (小計) | 54 | |
| | | (合計) | 63 | 県外含む |

以上のように高校生対象アンケートの結果から予測される数値において、定員60人に関しては十分な需要があると考えられる。

ただし、実際に志願者が厳しい数値になるリスクも予測できる。その予測に立って学生募集活動に取り組まなければならない。

2) 一般企業等の事業所における人材需要の状況

次に、山形県内の事業所（一般企業、福祉施設、自治体）を対象に行った人材需要の状況についてのアンケート調査の結果及び既存の学科における一般企業等の求人状況と就職実績等に基づき、新設学科の定員に見合う新卒採用者数の見通しについて述べ、定員の妥当性について説明する。

a. 事業所対象アンケートから

まず、山形県内の事業所を対象としたアンケート調査において、【問 10】「貴事業所では、本学が設置を予定している『人間関係学科』で学んだ学生を採用してみたいと思われますか」に対して、一般企業の回答 187 件のうち、「大いにそう思う」が 17 件 (9.09%)、「ある程度そう思う」が 81 件 (43.32%)、自治体の回答 22 件のうち、「大いにそう思う」が 3 件 (13.64%)、「ある程度そう思う」が 7 件 (31.82%)、福祉関係の回答 110 件のうち、「大いにそう思う」が 33 件 (30.00%)、「ある程度そう思う」が 45 件 (40.91%) であった。

一般企業、自治体、福祉関係を合計すると 319 件の回答のうち、「大いにそう思う」が 53 件 (16.61%)、「ある程度そう思う」が 133 件 (41.69%) となり、両者を併せると 186 件 (58.31%) となる。(表 5)

なお、本調査に関して、調査対象である一般企業は、山形県内の各種事業所であるが、いずれも中小規模の企業であり、新卒者の採用に関して、中期的に何名の採用を考えるとという方針を尋ねることは実状にそぐわないところがあると判断した。福祉施設も同様である。人間関係学科の卒業生は、資格系の採用を目指すケースとは異なり、社会福祉士資格取得者であっても、一般就職か自治体の行政職がほとんどと考えられる。その点からも、採用の年度はおよそ単年度の採用を見込んでの回答であると考えられる。

【表 5】事業所対象アンケート問 10

①一般企業

| 問10 新学科で学んだ学生を採用したいですか？ | | | |
|-------------------------|----|-------|---------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：2.91 |
| 大いにそう思う | 17 | 9.09 | |
| ある程度そう思う | 81 | 43.32 | |
| あまり思わない | 36 | 19.25 | |
| まったく思わない | 8 | 4.28 | |
| わからない | 45 | 24.06 | |
| 無回答 | 0 | 0.00 | |

②福祉系

| 問10 新学科で学んだ学生を採用したいですか？ | | | |
|-------------------------|----|-------|---------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：2.44 |
| 大いにそう思う | 33 | 30.00 | |
| ある程度そう思う | 45 | 40.91 | |
| あまり思わない | 6 | 5.45 | |
| まったく思わない | 0 | 0.00 | |
| わからない | 25 | 22.73 | |
| 無回答 | 1 | 0.91 | |

③自治体

| 問10 新学科で学んだ学生を採用したいですか？ | | | |
|-------------------------|----|-------|---------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：3.33 |
| 大いにそう思う | 3 | 13.64 | |
| ある程度そう思う | 7 | 31.82 | |
| あまり思わない | 1 | 4.55 | |
| まったく思わない | 0 | 0.00 | |
| わからない | 10 | 45.45 | |
| 無回答 | 1 | 4.55 | |

b. 既存の学科における求人状況と就職実績

また、求人状況や既存の学科における就職状況（表6）についてみると、既存の人間科学部子ども教育学科に寄せられた過去3年間（2016～2018年度）の一般企業の求人数では、山形県内の求人件数が61件、68件、78件となっており、新設学科の定員に近い。ちなみに、山形ハローワークの受付求人数は、1,173人、932人、1,034人となっている。（表7）

【表6】東北文教大学受付 人間科学部子ども教育学科 一般企業希望者の求人状況

| 卒業年度 | 区分 | 一般企業 | 幼稚園 | 認定こども園 | 保育所 | その他の施設 | 計 |
|--------|--------|------|-----|--------|-----|--------|-----|
| 平成28年度 | 山形県 | 61 | 26 | 26 | 80 | 9 | 202 |
| | 東北地区 | 83 | 15 | 16 | 62 | 17 | 193 |
| | 関東・その他 | 130 | 27 | 14 | 178 | 14 | 363 |
| | 計 | 274 | 68 | 56 | 320 | 40 | 758 |

| | | | | | | | |
|----------|--------|-----|----|----|-----|----|-----|
| 平成 29 年度 | 山形県 | 68 | 19 | 23 | 77 | 14 | 201 |
| | 東北地区 | 80 | 22 | 18 | 63 | 16 | 199 |
| | 関東・その他 | 115 | 26 | 17 | 183 | 18 | 359 |
| | 計 | 263 | 67 | 58 | 323 | 48 | 759 |
| 平成 30 年度 | 山形県 | 78 | 18 | 34 | 76 | 15 | 221 |
| | 東北地区 | 76 | 24 | 20 | 57 | 20 | 197 |
| | 関東・その他 | 110 | 30 | 19 | 180 | 11 | 350 |
| | 計 | 264 | 72 | 73 | 313 | 46 | 768 |

【表 7】 山形ハローワーク大卒受付求人状況

| 卒業年度 | 全国からの求人数 | 山形ハローワーク 受付求人 | 山形県内大学受付求人 集計 |
|----------|----------|------------------|------------------|
| 平成 28 年度 | 17,822 | 1,173 | 1,302 |
| 平成 29 年度 | 18,227 | 932 | 1,160 |
| 平成 30 年度 | 19,164 | 1,034 | 1,228 |

これに対して、人間科学部子ども教育学科及び短期大学部総合文化学科の一般企業への就職者数（表 8）は、過去 3 年間（平成 28～30 年度）で $25+38=63$ 人、 $15+57=72$ 人、 $8+36=44$ 人となっており、一般企業に限ってみても 60 人程度の需要が見込まれる。（平成 30 年度の総合文化学科一般就職者数が 36 人と少ないのは、この学年の卒業生が 41 人、就職希望者数が 38 人と少なかったためである）

【表 8】 卒業生進路状況（数字は 5 月 1 日現在のものである。）

①子ども教育学科

| 卒業年度 | 卒業生数 | 就職希望者数 | 就職者数 | 活動中 | 就職率 | 大学院 | 専門学校 | 留学 | 家事従事者 | 一時的な 仕事 |
|------------------------|------|---------|---------|--------|-----------|-----|------|----|-------|------------|
| 平成28年度 (H29.3 卒) | 79 | 小学校 18 | 小学校 16 | 小学校 0 | 小学校 88.9% | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | | 専門職 34 | 専門職 34 | 専門職 0 | 専門職 100% | | | | | |
| | | 一般企業 25 | 一般企業 25 | 一般企業 0 | 一般企業 100% | | | | | |
| 合計 | 79 | 77 | 75 | 0 | 97.4% | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 |

H28: 小学校教員は、非常勤含まない数。

(※小学校教員正規採用 12 人、常勤講師 4 人、他に非常勤 2 人)

| 卒業年度 | 卒業者数 | 就職希望者数 | 就職者数 | 活動中 | 就職率 | 大学院 | 専門学校 | 留学 | 家事従事者 | 一時的な仕事 |
|--------------------|------|---------|---------|--------|-----------|-----|------|----|-------|--------|
| 平成29年度 (H30.3卒) | 73 | 小学校 20 | 小学校 20 | 小学校 0 | 小学校 100% | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 専門職 36 | 専門職 36 | 専門職 0 | 専門職 100% | | | | | |
| | | 一般企業 15 | 一般企業 15 | 一般企業 0 | 一般企業 100% | | | | | |
| 合計 | 73 | 71 | 71 | 0 | 100% | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |

H29：小学校教員は、常勤講師を含んだ数。

(※小学校教員正規採用 15 人、常勤講師 5 人、非常勤 0 人)

| 卒業年度 | 卒業者数 | 就職希望者数 | 就職者数 | 活動中 | 就職率 | 大学院 | 専門学校 | 留学 | 家事従事者 | 一時的な仕事 |
|--------------------|------|--------|--------|--------|-----------|-----|------|----|-------|--------|
| 平成30年度 (H31.3卒) | 65 | 小学校 26 | 小学校 22 | 小学校 4 | 小学校 84.6% | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | 専門職 29 | 専門職 29 | 専門職 0 | 専門職 100% | | | | | |
| | | 一般企業 8 | 一般企業 8 | 一般企業 0 | 一般企業 100% | | | | | |
| 合計 | 65 | 63 | 59 | 4 | 93.7% | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |

H30：小学校教員は、常勤講師を含んだ数。

(※小学校教員正規採用 18 人、常勤講師 4 人、活動中 4 人のうち非常勤 3 人)

②総合文化学科

| 卒業年度 | 卒業者数 | 就職希望者数 | 就職者数 | 活動中 | 就職率 | 編入学 | 専門学校 | 留学 | 家事従事者 | 一時的な仕事 |
|--------------------|------|--------|------|-----|-------|-----|------|----|-------|--------|
| 平成28年度 (H29.3卒) | 51 | 41 | 38 | 3 | 92.7% | 3 | 3 | 0 | 1 | 3 |
| 平成29年度 (H30.3卒) | 63 | 59 | 57 | 2 | 96.6% | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| 平成30年度 (H31.3卒) | 41 | 38 | 36 | 2 | 94.7% | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 |

以上のように、事業所アンケートに見られる新設学科に対する人材需要の見込み及び既存の学科における一般企業等の求人状況と就職実績からも、60人の需要は十分に確認できる。従って、卒業後の進路確保の観点からも定員60人は妥当であると考えられる。

さらに、教育効果に関してだが、専任教員 18 名に対して、入学定員 60 人とする、収容定員 240 人、編入学 10 人 (2 学年)、合計 250 人であり、専任教員一人当たりの学生数は、13.3 人名 (編入学を入れると 13.8 人) となる。少人数での教育が可能であり、学科の教育目的達成に十分な環境といえる。

なお、「既存大学等の状況」として東北文教大学人間科学部子ども教育学科、東北文教大学短期大学部総合文化学科・子ども学科・人間福祉学科の状況であるが、東北文教大学短期大学部総合文化学科と人間福祉学科はともに定員未充足である。このうち、総合文化学科は、2021 年度から募集を

停止する。人間福祉学科は、定員超過率 0.55 倍となっているが、これは全国的な介護福祉職養成校の志願者減少の結果である。当該学科では、数年来卒業生の介護職への就職率は 100%であり、ほぼ全員が介護職に就いている（資料 1）。介護現場の人材不足に対して、適切な専門職養成の教育と支援を行い、地域に人材を輩出している。県からの委託研修生の受け入れも積極的に行い、社会的な要請にも応えている。しかしながら、高校生の介護離れはいかんともしがたく、現状の定員未充足となっている。

このような危機的な状況に対して、東北文教大学短期大学部では、2021 年度から人間福祉学科を現代福祉学科と改称し、より幅広い需要に応える人材の受け入れを考えた改革を計画中である。

- ・定員を充足する見込みについて

上記のような定員設定の考えに基づき、どのように学生を確保するか、その前提となる現在の本学を取り巻く状況、とりわけ 18 歳人口の全国的、地域的動向と地域の高校生の進学状況について述べる。

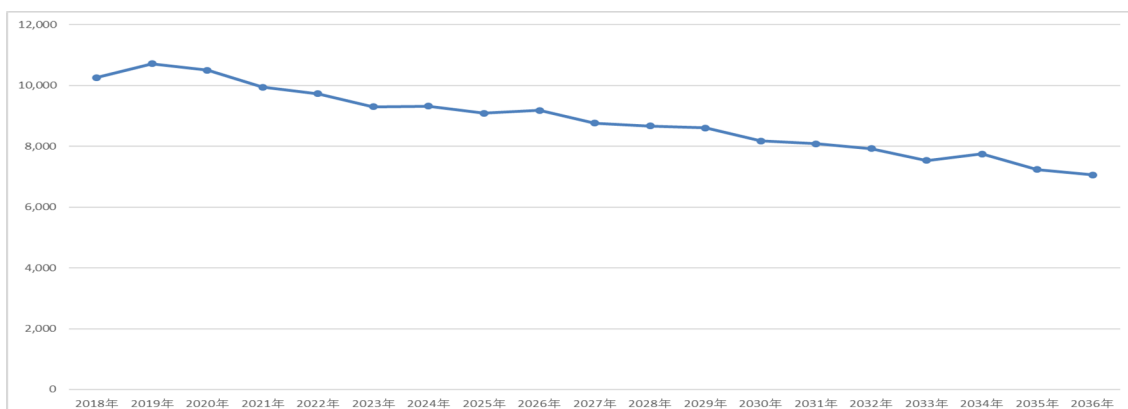
- 1) 18 歳人口の全国的、地域的動向

まず、全国的な 18 歳人口の動向についてだが、「リクルート進学総研マーケットリポート」70 号、2019 年 11 月号による予測では、2019 年に 117.5 万人だったものが、2024 年にかけて 116.7 万人、114.1 万人、112.1 万人、109.7 万人、106.2 万人と減少していく。その後、2025 年～2027 年に微増するものの横ばいとなり、2028 年～2031 年に僅かずつだが再度減少し、106.9 万人、106.7 万人、104.8 万人、103.3 万人となるとしている。このなかで、山形県は、2019 年～2031 年に 18 歳人口の減少率が 23.0%と予測されている。この数字を見る限り、進学者の長期的な確保は厳しいと思われる。

本学の入学者は山形県出身者の占める割合が非常に高く、平成 29～31 年度の入学者でいうと、88.9%、90.5%、90.0%となっている。人間関係学科の入学者においても状況は同じものと考えられる。

そこで、より詳細な山形県の 18 歳人口の動態を確認すると、「山形県社会的移動調査結果報告書」によれば、平成 30 年 10 月 1 日時点での 18 歳人口は 10,264 人であり、令和 2 年までは 1 万人台をキープ(10,506 人)するが、令和 3 年以降は 1 万人を割って 9,946 人となり減少し続けるものと予想される。

【表 9】 山形県 18 歳人口推移（予想）



| 年度 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 | 2023年 | 2024年 | 2025年 | 2026年 | 2027年 | 2028年 | 2029年 | 2030年 | 2031年 | 2032年 | 2033年 | 2034年 | 2035年 | 2036年 |
|----|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 人口 | 10,264 | 10,721 | 10,506 | 9,946 | 9,731 | 9,301 | 9,327 | 9,088 | 9,180 | 8,764 | 8,671 | 8,608 | 8,177 | 8,083 | 7,925 | 7,539 | 7,748 | 7,237 | 7,062 |

2) 山形県の進学率

これに対して、進学率は平成 30 年度に 45.3%であり、この数字は全国平均 54.7%を下回っている。このまま 18 歳人口が減少していき、進学率が上がらなければ進学者数は減少することになる。したがって、将来にわたって学生を確保していくためには、この進学率の上昇を促すことが課題となる。

【表 10】 山形県大学進学率推移

| | H22 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 山形県 | 45.8% | 46.3% | 46.1% | 44.4% | 44.7% | 45.1% | 44.9% | 45.3% | 45.3% | 44.6% |
| 全国平均 | 54.3% | 53.9% | 53.5% | 53.2% | 53.8% | 54.5% | 54.7% | 54.7% | 54.7% | 54.7% |

ところで、この進学率の低さについては、山形県内には大学の数が少なく、特に総合的教養教育型の学部学科が少ないため、経済的な負担の少ない「地元」で学んで一般就職ができる進学先がないことが考えられる。平成 30 年度でみると、山形県の高校生の総進学者数は、4,224 人、このうち進学先としては、山形県内が 900 人に対して、県外では首都圏（東京 629 人・神奈川 323 人・千葉 220 人）が 1,172 人と集中しているが、宮城県が 1 県のみで 787 人となっている。これには、通学圏内にある宮城県内の大学に進学しているものが一定数含まれていると考えられる。（山形県の進学者の動態についてのデータは、「山形大学次世代形成・評価開発機構 OIRE Power BI Reports」に拠る）

進学率の低さについては、地元に通学可能な大学が少ない、あるいはないために、費用のことを考え進学をあきらめているというケースも要因として考えられる。それは、一方では隣県の通学可能な大学への進学者の多さとしても顕れている。つまり、経済的負担の少ない進学先の選択肢が増えることが進学率の上昇に必要ではないかということである。

このように考えると、総合的教養教育型の学科である人間関係学科への進学者は、現状の宮城県への進学者や、進学をあきらめているかもしれない高校生から発掘できるものと思われる。また、それは、進学者の県外流出を防ぎ、あるいは進学率を上げることにもつながる可能性がある。

本学の人間科学部子ども教育学科は、平成31年度において入学者が定員を超過し112.2%の充足率となっている。さまざまな要因が考えられるが、そのなかで、小学校教員の採用をはじめとする高い就職率とそれを生み出していねいな少人数教育があげられる。地元から学生を受け入れ、ていねいな教育・支援によって地域社会に人材を輩出するという地方小規模大学の役割を、人間関係学科も含めて今後も大学全体として確実に実行していくことで学生の確保は十分に可能である。

3) 山形県内の高校生の地元志向について

上述のように、山形県の高校生の県外進学先は首都圏が最も多く、ついで宮城県が多い。宮城県に存在する大学への進学者が多いことは、比較的近距離（地域によっては自宅から通学可能）の大学に進学希望が多いということであり、言い換えれば、それは県内に受け皿となる大学が少ないということ、特に専門職養成ではない、教養系の学部・学科を持つ大学が少ないことが関係していると考えられる。

このことに関連して、高校生対象ニーズ調査において、【問6】「進学先を卒業後、どのような希望を持っていますか」という問いに対して、進学希望者全体（回答数2,332人）のうち、「地元で就職したい」が543人（23.28%）、「地元以外（ただし山形県内か隣県地域）で就職したい」が606人（25.99%）、「地元以外（首都圏等）で就職したい」が738人（31.65%）、「地元以外にいったん就職し将来は地元に戻りたい」が281人（12.05%）だったことがあげられる。

【表 11】 高校生アンケート問 6・進学希望者全体

| 問6 進学先を卒業後、どのような希望を持っていますか？ | | | |
|-----------------------------|-----|-------|---------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：2.53 |
| 地元で就職 | 543 | 23.28 | |
| 地元以外で就職 山形県内か隣 県 | 606 | 25.99 | |
| 地元以外で就職 首都圏等 | 738 | 31.65 | |
| 地元以外に就職 し将来地元に戻 る | 281 | 12.05 | |
| その他 | 155 | 6.65 | |

このなかで、「地元以外（山形県内か隣県地域）で就職したい」という回答は、地元（自分が住む自治体ないしはその近隣）ではないが同じ山形県内に就職したい、または隣県地域（先述の山形県の高校生の大学進学動向に照らし合わせれば、宮城県が有力な就職先といえる）に就職したいという希望を持つものである。同じ山形県内や宮城県の就職という場合、地域によっては自宅からの通勤圏内でもありうる。このようになるべく居住地に近い場所（通勤圏内も含めて）に就職したいという希望を持っている高校生と上記の「（宮城県など）比較的近距離の大学に進学する高校生」が対応する関係にあると推測される。すなわち、これに該当する高校生には、潜在的に地元または自宅から通える範囲内に大学があれば、進学先として考える可能性が十分にあるといえる。

したがって、これに「地元で就職したい」という回答を加えた 1149 人（49.27%）が、地元で学んで、地元で就職できる大学があれば、進学先の一つとして選択する可能性があるものと考えられる。（大学進学希望者のみの回答 1617 人でも同じ回答者数は、766 人（47.37%）であり同様の数値となっている）

以上のことから、定員充足のために重要なことは、新設学科の設置を必要とする高校生を見極めて的確にアプローチすることであり、本学の教育研究の特徴とこれまでの実績をしっかりと伝える広報活動を展開すれば、定員確保の見込みは十分にある。

（イ）定員充足の客観的なデータの概要

- ・ 既存の学部・学科の定員充足状況（過去 5 年分の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、定員超過率）

人間科学部に既存の子ども教育学科と併設する東北文教大学短期大学部

の3学科の過去5年間の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、定員超過率について、人間科学部子ども教育学科は、定員を上回る志願者数を確保し、入学者数も90%以上を保ち、平成31(2019)年度は、定員の112.2%に達した(資料2)。一方、東北文教大学短期大学部は、子ども学科が志願者数、入学者数ともに定員以上の数を確保しているが、総合文化学科と人間福祉学科は定員を下回る状態が続いている。その結果、3学科の定員超過率は70%前後となっていた。そこで、平成31(2019)年度からは、この2学科の定員をそれぞれ80人から60人に引き下げ、より実状にあった規模に改め、その結果、定員超過率は、87%に回復している。

・ 高校生対象ニーズ調査

地域のニーズを把握するため、以下のニーズ調査を行った。

① 予備調査：2018年6～9月

- ・ 県内高校(20校)校長宛にアンケート送付
- ・ 高校訪問を兼ねて主なアンケート実施校にインタビュー

② 本調査(2018年10～11月)(資料3)

- ・ 県内高校(34校)の文系2年生2クラス分の生徒(2,612人回答)を対象にアンケート

本学独自に事業所対象ニーズ調査を実施するため、新学科設置準備室のなかに、データ整理を担当するIR室も含めたニーズ調査ワーキンググループを組織し、調査対象の選定から予備調査の実施内容と結果の分析、本調査の質問事項、分析方法等の検討を行ってきた。高校へのニーズ調査は、県内の全高校のうち、大学進学の可能性が少ない実業高校などを除いたほぼ全高校対象に偏りが生じないように実施した。分析作業も、客観的、中立的に進め、その結果のみを設置準備のための検討会議に報告するなどの注意を払った。

予備調査では、本調査における質問内容を整理・精選するために、県内高校の進路指導室からアンケートの回答をもらい、その後主な高校にインタビューを行った上でアンケートの内容を完成させ、本調査を県内高校を対象を絞って実施した。

県内高校に絞った理由は、人間関係学科設置の趣旨の中核の一つが、山形県から他県への進学のために流出する高校生に対して地元の受け皿となり、経済的負担を軽減させて進学をしやすくすることであり、県内高校生のもっとも重要なニーズの一つと考えたからである。(なお、本調査実施の時点で、3つのコースの名称を仮に「言語コミュニケーションコース」、「心理総合コース」、「福祉マネジメントコース」とした。しかし、調査後、「言語コミュ

ニケーションコース」は、より地域社会との関わりに重点を置いたものが望ましいと判断し、「グローバルコミュニケーションコース」に変更した。）

本調査の結果から、とりわけ注目すべきものについて以下に記述する。

【問 3】「あなたが進学し、学びたいと考えている分野を次の中から第 2 希望までマークしてください」では、次のような回答を得た。

回答者全体の結果として、第 1 希望は、「教育学・保育学」が最も高く 385 人 (16.51%)、次いで「語学・文学」が 377 人 (16.17%)、次いで「経済学・経営学」335 人 (14.37%) となる。「社会学・福祉学」、「心理学」の第 1 希望は少ない。(それぞれ 131 人 (5.62%)、126 人 (5.40%)) しかし、第 2 希望では、「心理学」が最も高く 329 人 (14.11%) であるが、「語学・文学」278 人 (11.92%) と「社会学・福祉学」272 人 (11.66%) も高い数値である。

これに対し、大学進学希望者のみの場合、第 1 希望は、「語学・文学」が最も高く 312 人 (19.29%)、ついで「経済学・経営学」303 人 (18.74%)、「教育学・保育学」269 人 (16.64%) となる。しかし、第 2 希望では、「心理学」が最も高く 257 人 (15.89%)、「社会学・福祉学」199 人 (12.31%)、「語学・文学」216 人 (13.36%) も高い。これらの結果は、回答者全体とほぼ同じであり、第 1 希望、第 2 希望を合わせて考えれば、「語学・文学」、「心理学」、「社会学・福祉学」の 3 分野に対する興味が確認できる。

次に、【問 8】「新学科（人間関係学科）では次のような科目を予定しています。学んでみたい科目があれば、次の中から 3 つまでマークしてください」では、次のような回答を得た。

回答者全体の結果は、「人間行動の心理」1070 人 (45.88%) と「コミュニケーション力を高める」1070 人 (45.88%) が非常に高く、次いで、「国際関係」694 人 (29.76%)、「異文化理解」642 人 (27.53%)、「語学力」592 人 (25.39%) となっている。

これに対し、大学進学希望者のみの結果は、「人間行動の心理」767 人 (47.43%) と「コミュニケーション力を高める」705 人 (43.60%) が非常に高い。次いで「国際関係」520 人 (32.16%)、「異文化理解」464 人 (28.70%)、「語学力」420 人 (25.97%) となり、全体の結果とほぼ同じであるが、パーセンテージとしては、回答者全体よりも高い数値である。

これらの結果から、人間関係学の柱と考える「人間の理解」、「関係の構築・調整」、「協働力」に関わる学修内容への興味が確認できるとともに、異文化理解や語学への関心も高いと考えられる。

次に、【問 9】「新学科（人間関係学科）で取得できる資格として、あれば

いいと思うのはどれですか」では、次のような回答を得た。

回答者全体の結果としては、「公認心理師」761人(32.36%)、「社会福祉士」778人(33.36%)が高く、次いで、「ビジネス実務士」629人(26.97%)、「情報処理士」563人(24.14%)となっているが、大学進学希望者のみの結果は、「公認心理師」555人(34.32%)、「社会福祉士」491人(30.36%)が高いが、「ビジネス実務士」472人(29.19%)も高く、次いで「認定心理士」404人(24.98%)、「情報処理士」385人(23.81%)、「図書館司書」337人(20.84%)の順で、いずれのパーセンテージも回答者全体の結果に比べても高い数値である。

予定している取得可能な資格である、「認定心理士」、「社会福祉士」、「図書館司書」のいずれも一定の需要が確認できる。特に、社会福祉士への関心は高く、需要が見込まれる。

最後に、【問 10】「あなたは東北文教大学人間科学部に設置予定の『人間関係学科』に進学を希望したいと思いますか」では、次のような回答結果を得た。

回答者全体では、「進学希望」57人(2.44%)、「一応考える」98人(4.20%)、「候補の一つ」503人(21.57%)を合わせると658人(25.38%)になる。大学進学希望者のみの結果では、「進学希望」41人(2.54%)、「一応考える」75人(4.64%)、「候補の一つ」390人(24.12%)を合わせると506人(31.3%)となり、パーセンテージは回答者全体よりもやや高い数値である。大学進学希望者のみの結果ではあるが、3割が興味を示している。

なお、この【問 10】に関しては、既に「入学定員設定の考え方」において述べたのでここでは繰り返さない。

- ・ 競合校の状況（競合校としての妥当性（受験者層、立地条件等）を含め）

全国の私立大学のうち、人間関係学科及びこれと類似する内容や名称の学科について把握しておくとして、日本私立学校振興・共済事業団私学経営情報センターによる平成26年度～平成30年度の入学定員・志願者・受験者・合格者・入学者・志願倍率・合格率・歩留率・入学定員充足率を挙げたデータによると、人間関係学科は、平成30年度に学科数が8から6に減少し、入学定員も平成28年度を境に減ってきてはいるが、志願者数は、28年度以降ほぼ3,000人をキープしており、入学定員充足率も、29年度30年度は110%を超えている。

また、本学の人間関係学科に予定している3つのコース（グローバルコミ

コミュニケーションコース、心理総合コース、福祉マネジメントコース) に関連する学科についてみる。

まず、言語や文化関連の学科では、言語文化学科が学科数4校ながら、わずかに入学定員を減らしているだけで、入学定員充足率を119.51%に伸ばしている。また、人間文化学科は、10校から9校に減り、入学定員は1000人規模から745人に減少している。しかし、平成30年度の入学定員充足率は、97.72%と数値的には回復している。

次に、心理学系の人間心理学科は、学科数が平成30年度に5校に減少し、入学定員も500人に減っている。志願者数も減少傾向にあるようだが、入学定員充足率は、平成30年度106.00%である。

社会福祉学科は、学科数、入学定員ともに若干減少しているが、志願者数は微増傾向にあり、入学定員充足率もわずかに伸びており、平成30年度は96.05%に達している。人間福祉学科も同様に学科数、入学定員ともに減少傾向だが、入学定員充足率は平成30年度90.29%と回復している。

これらのデータから、ここに挙げられた人文社会系の学科は、全体的に学科数及び入学定員を減らす方向に動いているものの、入学定員充足率は適正化される方向に向かっていると見える。そのなかで、心理や福祉といった単独の専門分野で構成されている学科はより縮小する傾向にある。それに比して、人間関係学科のような、複数分野からなる総合的教養教育型の学科に若干の優位性が認められるのが現状であると考えられる。

なお、人間関係学科を持つ主な大学には、以下のようなものがある。(カッコ内は入学定員)

- ・天理大学人間学部人間関係学科(臨床心理学専攻(30)／生涯教育専攻(20)／社会福祉専攻(20))
- ・大妻女子大学人間関係学部人間関係学科(社会学専攻(75)／社会・臨床心理学専攻(75))
- ・聖心女子大学現代教養学部人間関係学科(60)
- ・椛山女子学園大学人間関係学部人間関係学科(110)
- ・北九州市立大学文学部人間関係学科(80)

上記の大学は、いずれも地域的に本学が対象とする山形県とその周辺地域とは離れており、その意味で競合校とは考えにくい。山形県内には人間関係に関する教育研究を主とする大学がほとんどなく、進学者は宮城県の人文社会系の大学に進学している。

そうした点から競合校として考えられるのは、県内では東北公益文科大学である。また、宮城県にある私立大学でも人間関係学科と同系統の内容を持つ学部学科があげられる。尚絅学院大学、石巻専修大学などが対象としてあ

げられるが、これらの大学では、志願者数、入学者数に伸びが目立つ。

以上の競合校としてあげられる、東北公益文科大学と石巻専修大学人間学部について、過去5年間（平成27～平成31年）の志願倍率、定員充足率は以下の表のとおりである。

【表12】東北公益文科大学、石巻専修大学志願倍率及び定員充足率

①東北公益文科大学

| | |
|------|-----|
| 募集定員 | 235 |
| 収容定員 | 960 |

| | 2015 (H27) | 2016 (H28) | 2017 (H29) | 2018 (H30) | 2019 (H31) |
|-------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 志願倍率 | 1.37 | 1.55 | 1.71 | 1.81 | 2.16 |
| 定員充足率 | 65.7% | 70.8% | 77.7% | 86.4% | 96.3% |

②石巻専修大学 人間学部

| | |
|------|-----|
| 募集定員 | 80 |
| 収容定員 | 320 |

| | 2015 (H27) | 2016 (H28) | 2017 (H29) | 2018 (H30) | 2019 (H31) |
|-------|------------|------------|------------|------------|------------|
| 志願倍率 | 1.90 | 1.14 | 1.91 | 2.26 | 2.99 |
| 定員充足率 | 45.3% | 58.8% | 79.1% | 79.1% | 80.3% |

東北公益文科大学は、公益学部公益学科を有し、人文社会系の内容を持つ文科系教養学科である。6つのコースを地域経営系と交流文化系に分け、前者には、経営コース、政策コース、地域福祉コース、後者には、国際教養コース、観光・まちづくりコース、メディア情報コースを配している。また、海外留学制度も豊富に取り揃えており、国際化に対応する人材の育成に力を入れている。さらに、社会福祉士養成や教職課程（中学校教諭、高校教諭免許）なども設けており、本学人間科学部と競合する点が多い。このような同様の教育研究分野を持つ学科の志願者数が伸びていることは、同じ地域における教養型学科への需要が高いことを示している。ただ、同大学は、同じ山形県内ではあるが、庄内地方（酒田市）に位置し、本学が位置する内陸部の村山地方や隣接する置賜・最上地方からの通学は難しい。通学圏にある本学の経済的メリットをしっかりと広報すれば、同大学を志望する高校生の中には本学進学を視野に入れる可能性もあり、定員確保につながると考える。

石巻専修大学人間学部は、宮城県石巻市に置かれ、人間教育学科と人間文化学科からなる。人間教育学科は、本学の子ども教育学科と同じ教員養成課程（小学校教諭免許）であり、人間文化学科は、英語英文系を核とした文系学科で、新設予定の本学人間関係学科と語学系のプログラムなどで類似した内容を持つ。この2, 3年の間に定員充足率を徐々に上げてきており、山形県内高校の進学先データ（各高校のホームページ）にも名前が散見される。石巻市は仙台市からも距離があり、山形から自宅通学は困難と思われるが、高校生対象ニーズ調査からは、地元から遠くない場所を選ぶ対象に該当する大学であり、本学が目指す人間関係学科と同様の教育研究分野への需要が確認できる。

尚絅学院大学は、平成31（2019）年度から学群制に移行したため、それ以前の総合人間科学部の志願者数等のデータが公開されておらず、人間科学部と関連性の高い分野の学群・学類の平成31年度のみ数値を示す。

- ・人文科学群は、入学定員200人、志願倍率3.62、定員充足率125%
- ・心理学類は、入学定員60人、志願倍率4.13、定員充足率113%
- ・子ども学類は、入学定員80人、志願倍率2.18、定員充足率83%

本学人間科学部子ども教育学科と類似の子ども学類のみ定員充足率100%を下回っているが、他の人間関係学科と類似の学群・学類は100%を上回る。尚絅学院大学は、宮城県名取市に位置する。石巻専修大学と同様の地理的な環境にあり、やはり同様な教育研究分野の需要が確認できる。

以上のような競合校の志願者状況等から判断すると、山形県及び隣県地域における教養系学科への進学は、高校生の高い関心と入学実績を生んでいる状況にある。これらの大学と同様の教育研究分野を有する人間関係学科は、地元、または地元から遠くない地域への進学を希望する高校生や地元で大学がなかったために進学をあきらめていたかもしれない高校生を受け入れることで、学生確保の見通しが十分に立つと考える。

（ウ） 学生納付金の設定の考え方

- ・ 設定の考え方（競合校との比較も含めて）

納付金については、既存の人間科学部子ども教育学科の学生納付金と項目は同じくするが、そのうちの「実験実習費」は人間関係学科の教育課程の特性に照らして額を低く設定する。内訳と金額は以下の通りである。

学費等の納入金（単位：円）

| | 前期 | | 後期 | |
|----------|---------|---------|---------|---------|
| | 子ども教育学科 | 人間関係学科 | 子ども教育学科 | 人間関係学科 |
| 入学金 | 280,000 | 280,000 | — | — |
| 授業料 | 350,000 | 350,000 | 350,000 | 350,000 |
| 教育充実費 | 71,000 | 71,000 | 71,000 | 71,000 |
| 施設充実費 | 62,500 | 62,500 | 62,500 | 62,500 |
| 実験実習費 | 25,000 | 7,500 | 25,000 | 7,500 |
| 計（1年次） | 788,500 | 771,000 | 508,500 | 491,000 |
| 計（2年次以降） | 508,500 | 491,000 | 508,500 | 491,000 |

学費以外の諸経費（単位：円）

| | | |
|---------------------|------------------------|--------|
| 諸会費 | 保護者会会費（年会費） | 9,600 |
| | 教育後援会会費（年会費） | 9,000 |
| | 学生自治会入会費 | 1,500 |
| | 学生自治会会費（年会費） | 4,500 |
| 保険加入費 | 学生教育研究災害傷害保険加入費（1年次のみ） | 3,370 |
| | 学研災付帯賠償責任保険Aコース（1年次のみ） | 1,360 |
| 学科研究費（1年次のみ） | | 4,000 |
| 卒業時積立金（年額）*3,4年次に徴収 | | — |
| 検査費〔健康診断〕（年額） | | 2,890 |
| 計 | | 36,220 |

競合校の例として、東北公益文科大学、石巻専修大学人間学部、尚絅学院大学の学生納付金をあげる。

まず、東北公益文科大学をあげる。（単位：円）

| | 春学期 | 秋学期 |
|----------|---------|---------|
| 入学金 | 270,000 | — |
| 授業料 | 325,000 | 325,000 |
| 施設整備費 | 100,000 | 100,000 |
| 計（1年次） | 695,000 | 425,000 |
| 計（2年次以降） | 425,000 | 425,000 |

*上記の他、入学手続き時に学生教育研究災害傷害保険料 3,300 円（4 年分）と学研災付帯賠償責任保険料 1,360 円（4 年分）、保護者会費 5,000 円（半

期分)が必要となる。また、1年次秋学期より半期ごとに、保護者会費として5,000円、2年次(3年次編入は入学時)より同窓会費として5,000円が必要となる。

次に、石巻専修大学人間学部をあげる。

① 人間文化学科 (単位：円)

| | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|---------------------|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 入学金 (1) | | 230,000 | - | - | - |
| 授業料 (2) | | 700,000 | 700,000 | 700,000 | 700,000 |
| 施設費 (3) | | 260,000 | 260,000 | 260,000 | 260,000 |
| 教育充実費 (4) | | 53,000 | 53,000 | 53,000 | 53,000 |
| 委託 徴収費 | 学生会入会費 | 2,000 | - | - | - |
| | 学生会会費 | 8,000 | 8,000 | 8,000 | 8,000 |
| | 育友会費 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 |
| | 校友会入会費 | 10,000 | - | - | - |
| | 校友会会費予納 金 | - | - | - | 15,000 |
| | 卒業アルバム代 | - | - | - | 11,500 |
| 計 (2年次以降) (2) ~ (4) | | | 1,013,000 | 1,013,000 | 1,013,000 |
| 合計 | | 1,273,000 | 1,031,000 | 1,031,000 | 1,057,500 |

② 人間教育学科 (単位：円)

| | | 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|---------------------|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 入学金 | | 230,000 | - | - | - |
| 授業料 | | 710,000 | 710,000 | 710,000 | 710,000 |
| 施設費 | | 260,000 | 260,000 | 260,000 | 260,000 |
| 教育充実費 | | 73,000 | 73,000 | 73,000 | 73,000 |
| 委託徴 収費 | 学生会入会費 | 2,000 | - | - | - |
| | 学生会会費 | 8,000 | 8,000 | 8,000 | 8,000 |
| | 育友会費 | 10,000 | 10,000 | 10,000 | 10,000 |
| | 校友会入会費 | 10,000 | - | - | - |
| | 校友会会費予納 金 | - | - | - | 15,000 |
| | 卒業アルバム代 | - | - | - | 11,500 |
| 計 (2年次以降) (2) ~ (4) | | | 1,043,000 | 1,043,000 | 1,043,000 |
| 合計 | | 1,303,000 | 1,061,000 | 1,061,000 | 1,087,500 |

次に、尚絅学院大学をあげる。

・大学1年（単位：円）

| | | 人文社会・心理・子ども・学校教育学類 | |
|-------------|------------|--------------------|---------|
| | | 前期 | 後期 |
| 入学金 | | 240,000 | - |
| 学納金 | 授業料(1) | 377,000 | 377,000 |
| | 教育充実費(2) | 50,000 | - |
| | 施設設備費(3) | 201,000 | - |
| その他の 納付金 | 学生会費 | 3,600 | 3,600 |
| | 尚学会費 | 3,250 | 3,250 |
| | 後援会費 | 10,200 | 10,200 |
| | 同窓会前納金 | 900 | 900 |
| | オリエンテーション費 | 6,260 | - |
| 小計 | | 652,210 | 394,950 |
| 合計 | | 1,287,160 | |

・2～4年（単位：円）

| | | 表現文化・人間心理 子ども・環境構想学科 | | 現代社会学科 | |
|-----------------|----------|-------------------------|---------|-----------|---------|
| | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 学納金 | 授業料(1) | 252,500 | 252,500 | 252,500 | 252,500 |
| | 教育充実費(2) | 155,000 | 155,000 | 155,000 | 155,000 |
| | 施設設備費(3) | 95,000 | 95,000 | 75,000 | 75,000 |
| その他の 納付金 | 学生会費 | 3,600 | 3,600 | 3,600 | 3,600 |
| | 尚学会費 | 3,250 | 3,250 | 3,250 | 3,250 |
| | 後援会費 | 10,200 | 10,200 | 10,200 | 10,200 |
| | 同窓会前納金 | 900 | 900 | 900 | 900 |
| 小計 | | 520,450 | 520,450 | 500,450 | 500,450 |
| 計(2年次以降)(1)～(3) | | 1,005,000 | | 965,000 | |
| 合計 | | 1,040,900 | | 1,000,900 | |

本学の入学金は、280,000円であるが、上記他大学では、270,000円（東北公益文科大学）、230,000円（石巻専修大学人間学部）、240,000円（尚絅学院大学）に比較してほぼ同じ額となっている。授業料等については、前期

後期あわせて 700,000 円、他大学では、650,000 円（東北公益文科大学）、700,000 円／710,000 円（石巻専修大学人間学部）、754,000 円（尚絅学院大学 1 年次、2 年次以降は 505,000 円）となっており、ほぼ同じ額に設定されている。

教育充実費は年 142,000 円、施設設備費は年 125,000 円、合計 267,000 円である。他大学では、年 200,000 円（東北公益文科大学。ただし施設整備費としてまとめている）、年 313,000 円～333,000 円（石巻専修大学人間学部）、年 251,000 円（尚絅学院 1 年次）、年 460,000 円～500,000 円（同 2 年次以降）となっている。尚絅学院大学の 2 年次以降の金額を除き、およそ各大学、年 200,000 円～300,000 円程度に収まっており、本学の設定も妥当な範囲にある。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

- ・ 学生確保についての具体的な取組状況（予定も含む）とその効果、反応等

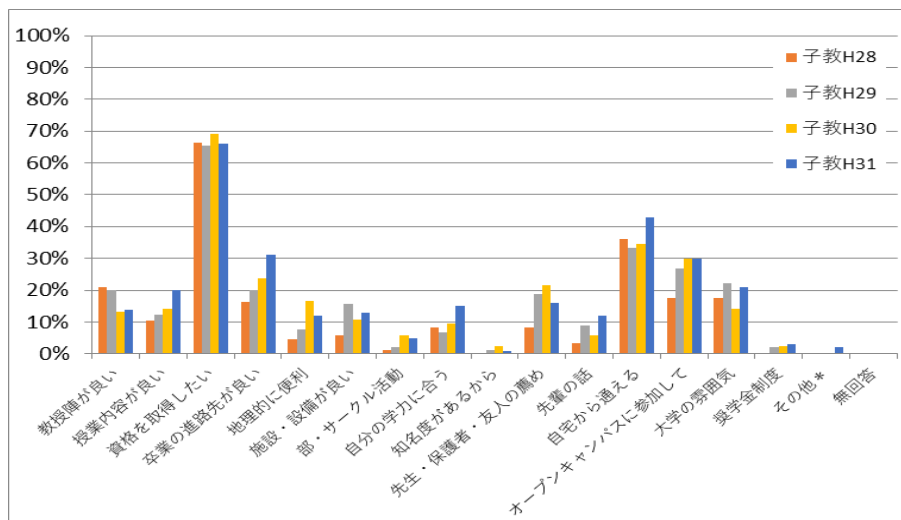
東北文教大学の学生募集活動は、事務局に置かれた入試広報センターを中心に行われている。

活動の概要は、以下のとおりである。

- ・ 大学案内等の各種印刷物の作成と入学実績校や高校生への配布
- ・ オープンキャンパスの実施
- ・ 高校訪問
- ・ 各種の学内説明会の実施
- ・ ホームページ
- ・ 各種の入試の実施

このうち、直接高校生を対象としているのは、オープンキャンパスであり、前年度末の 3 月から 8 月までの間に、年 4～5 回実施している。毎年、年度初めに実施している人間科学部子ども教育学科入学生アンケート結果によると、Q13「本学の受験情報や概況などを知るのに役立ったものはなんですか」については、オープンキャンパスが、43.0% (H28)、40.0% (H29)、44.0% (H30)、48.0% (H31) となり、非常に高い数値となっている。また、「担任の先生の話」も 37.2% (H28)、52.2% (H29)、53.6% (H30)、40.0% (H31) と非常に高く、「大学案内を含めたチラシ・パンフレット」が 36.0% (H28)、40.0% (H29)、39.3% (H30)、58.0% (H31) と同様に高くなっている。

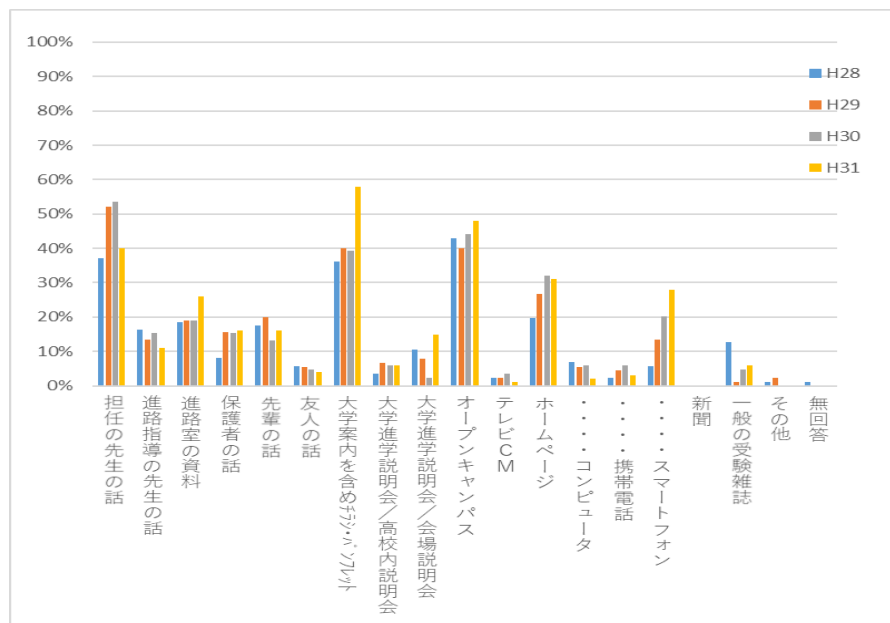
【表 13】 入学生アンケートQ13（子ども教育学科）



これらの結果は、オープンキャンパスによる高校生への直接的な広報活動、高校教員に対する広報活動とこれに伴う教員からの高校生への声かけ、大学案内等の配布物の3つが、学生確保に大きな効果を持っていることを示している。

特にオープンキャンパスは、Q3「なぜ本学を選びましたか」という問いで、「オープンキャンパスに参加して」と答えた入学生が、平成28年度は17.4%であったが、26.7%、29.8%、30.0%と年ごとに増加してきている。

【表 14】 入学生アンケートQ3（子ども教育学科）



また、入学生アンケートで「本学のオープンキャンパスに参加したことがありますか」という問い（データは平成30年度から）に、「ある」と答えたものが57.1%（H30）、59.0%となっており、入学生の約6割がオープンキャンパスに参加していることから、オープンキャンパスへの参加が選択の決め手として、大きな効果を持っていることが分かる。

高校教員（担任、進路指導室）への広報活動も重要であり、そのために高校訪問と高校教員対象の教育懇談会（入試説明会）を実施している。高校訪問は、毎年2回から4回程度、推薦と一般入試の時期に合わせて実施し、大学の概要と入試の説明を行っている。その結果として、訪問校数（延べ）は207校（H28）、256校（H29）、278校（H30）に対して、訪問校からの入学者は、69人（H28）、78人（H29）、92人（H30）と増加傾向にある。訪問した高校の進路指導室を通じて、毎年の入試情報が確実に高校生に伝えられる意味でも、高校訪問の効果は高い。

【表15】 高校訪問 訪問校からの志願者・入学者
平成28年度

| | 訪問校 | 大学 | | 短大 | | 合計 | |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | 志願者 | 入学者 | 志願者 | 入学者 | 志願者 | 入学者 |
| 県内 | 59 | 128 | 62 | 139 | 119 | 267 | 181 |
| 県外 | 148 | 25 | 7 | 9 | 7 | 34 | 14 |
| 合計 | 207 | 153 | 69 | 148 | 126 | 301 | 195 |

平成29年度

| | 訪問校 | 大学 | | 短大 | | 合計 | |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | 志願者 | 入学者 | 志願者 | 入学者 | 志願者 | 入学者 |
| 県内 | 57 | 145 | 70 | 161 | 138 | 306 | 208 |
| 県外 | 199 | 23 | 8 | 17 | 7 | 40 | 15 |
| 合計 | 256 | 168 | 78 | 178 | 145 | 346 | 223 |

平成30年度

| | 訪問校 | 大学 | | 短大 | | 合計 | |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | 志願者 | 入学者 | 志願者 | 入学者 | 志願者 | 入学者 |
| 県内 | 75 | 160 | 85 | 151 | 133 | 311 | 218 |
| 県外 | 203 | 25 | 7 | 8 | 4 | 33 | 11 |
| 合計 | 278 | 185 | 92 | 159 | 137 | 344 | 229 |

*訪問校数は、延べの数

高校教員対象の教育懇談会（入試説明会）は、毎年5月下旬に高校教員を

本学に招き、実施している。参加者は山形県内の高校が中心であるが、進路指導担当の教員が、キャンパスを見学するとともに、在学中の各高校出身の本学学生と懇談し、本学の教育環境や生活環境などについての情報を得てもらう機会となっている。参加教員を通じて、高校生に情報を伝えてもらうことで、学生確保への効果が期待される活動となっている。

【表 16】 教育懇談会出席校数

| | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 |
|----|----------|----------|----------|
| 県内 | 37 | 30 | 32 |
| 県外 | 5 | 1 | 1 |
| 合計 | 42 | 31 | 33 |

重要な広報活動として大学案内等の配布物があるが、そのなかでもっとも詳細な大学の情報を掲載したものが大学案内であり、入試広報活動の開始時期から、東北 6 県に新潟県を含めた各地の高校への配布のほか、資料請求者、各種の進学説明会参加者、オープンキャンパス参加者等々、多様な機会に配布することで、大学の概要と学生募集の基本情報をもっとも広く伝える効果を持っている。

また、上記の 3 つ以外にもホームページを通じての最新情報の配信はもとより、映像コンテンツによる大学紹介、LINE 個別相談会など、状況に応じた広報活動を展開し、受験希望者へのアクセスを効果的に行っている。

令和 2(2020)年度入試では、広報媒体ごとの資料請求者数、オープンキャンパス参加者数を割り出し、さらにそのなかから出願・合格・入学にどれだけ結びついたかをデータ化し、広報媒体の有効性をチェックしている。このようにして、今後の媒体の利用を効率化し、より実効性の高い媒体利用へと改善を図ることにしている。

【表 17】 令和 2(2020)年度入試広報媒体別資料請求数・オープンキャンパス参加者数と出願者数・合格者数・入学者数

| 媒体名 | 業者名 | 請求者数 | OC参加者数 | 出願者数 | 合格者数 | 入学者数 |
|--------------|-------|------|--------|------|------|------|
| 進路のミカタ 保護者版 | マイナビ | 79 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 進学事典 (19.04) | リクルート | 912 | 32 | 0 | 0 | 0 |
| マイナビ進学ガイド | マイナビ | 49 | 0 | 0 | 0 | 0 |

| | | | | | | |
|-----------------------|------------------|------|----|----|----|----|
| 春号 | | | | | | |
| マイナビ進学ガイド L I V E号 | マイナビ | 762 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| 進路のミカタ | マイナビ | 1143 | 81 | 4 | 4 | 4 |
| スタディサプリ進路 (19.03～) | リクルート | 475 | 33 | 15 | 15 | 15 |
| 進学事典(19.01発行) | リクルート | 642 | 40 | 28 | 28 | 28 |
| 資料請求 | フロムページ | 450 | 21 | 6 | 6 | 6 |
| 資料請求 | ライセンスアカデミ ー | 501 | 11 | 5 | 5 | 5 |
| 資料請求 | キッズコーポレーシ ョン | 419 | 14 | 5 | 5 | 5 |
| 資料請求 | J S コーポレーショ ン | 1193 | 36 | 12 | 12 | 12 |
| マイナビ進学 WEB | マイナビ | 390 | 17 | 11 | 11 | 11 |
| 資料請求 | 旺文社パスナビ | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |

また、資料請求者やオープンキャンパス参加者がどれだけ受験・合格・入
学に結びついているか、追跡できるようデータ化を進めている。

【表 18】 令和 2 年度入試プロセス別入学状況（子ども教育学科）



令和 2 年度入試の場合、資料請求数が 2,931 人、このうちオープンキャン

パスに参加したもの（表の「イベント種別」）が196人、そのなかで出願者が98人、合格者が95人、入学者が88人となっている。また、資料請求をしているが、オープンキャンパスに参加せず、出願・合格・入学というケースでは、66人、56人、28人となっている。これに対して、資料請求をせず、オープンキャンパスから参加し、出願・合格・入学というケースが、76人、39人、39人、36人となっている。

この他に、資料請求、オープンキャンパス参加、いずれにも当てはまらない出願者が17人で、同じく合格17人、入学17人となっている。なお、この表は、人間科学部子ども教育学科の資料請求者、オープンキャンパス参加者としてデータを集計したもののため、子ども教育学科と短期大学部子ども学科も両方希望しているものが含まれている。そのため、出願・合格・入学には、両方の志願者が混在した数字になっている。子ども教育学科の入学者は、表の上から88人中42人、28人中24人、36人中21人、17人中17人である。

この結果から、資料請求～オープンキャンパス参加を経て入学している学生が52.1%であることがわかる。したがって、このプロセスをより強化していくことが学生確保の確実性を高めると考えられる。

このような客観的データから、入学までのプロセス分析と、資料請求者の動向、オープンキャンパスの有効性等々を検証し、より効果的な学生募集活動を展開していくことにしている。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

新設する人間関係学科は、深い人間理解に基づいた知恵と幅広い教養、確かな専門的知識・技術をもって、国際化・少子高齢化・情報化が進み、多様化・複雑化する現代社会の中で、他者を理解し、思いやり、信頼関係・協調関係を築き、共に創造性を発揮して地域の課題解決に貢献できる人間関係力豊かな人材の育成を目的としている。

このため人間関係学科では、人間関係力やコミュニケーション能力について多角的に学び、家庭、地域社会、職場で豊かな人間関係を構築することのできる資質・能力を身につけた人材を育成するとともに、人間と人間の営みについて、コミュニケーション学的、心理学的、福祉学的立場から専門的な学びを深めるとともに、広く複眼的・多角的な視点から地域の課題解決に貢献できる人材の育成を目指している。

また、人間関係学科のディプロマポリシーは、以下の通りである。

- (1) 基礎教育科目等の学修や学内外の諸活動等を通して、幅広い教養を身につけるとともに、自己を取り巻く世界や環境を知ることで多角的なものの見方、考え方ができる。
- (2) 専門教育科目等の学修を通して、人間関係についての知識・技術とコミュニケーション能力を身につけ、家庭、地域社会、職場等での豊かな人間関係の構築に貢献することができる。
- (3) 3つのコースにおけるいずれかの専門分野の知見をもち、それを現実的、個別的な人間関係の課題に適用して、地域社会の課題解決に貢献できる。

ア、 グローカルコミュニケーションコース

多様な異文化への理解力と高い言語運用能力を身につけ、グローバル化する地域の課題解決のためのコミュニケーション能力と行動力を発揮できる。

イ、 心理総合コース

心理学の知見をもとに人間行動に関する深い理解をもち、確かなデータリテラシーを発揮して課題解決に取り組むことができる。

ウ、 福祉マネジメントコース

社会福祉の知見をもとに複雑化・多様化する社会の様態を理解し、ソーシャルワークの技術をもって課題解決に取り組むことができる。

- (4) 学問に裏付けられた論理的思考によって、的確な課題の設定から論証を経て結論を述べることができる。

②上記①「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

上記のような人材養成の目的から、人間関係学科において想定される卒業後の進路としては、以下のような場合が考えられる。

- ・ 民間企業（一般事務職、企画職、営業職、人事職他）
- ・ 自治体（行政職、心理職、福祉職他）
- ・ NPO 法人
- ・ 医療機関や福祉施設
- ・ 大学院進学（コミュニケーション系、心理系、福祉系他）

このうち、大学院進学を除き、主な進路先である一般企業、自治体、福祉施設を対象に以下のアンケート調査を行った。

①予備調査：2018年6～9月

・県内事業所（一般企業8社、介護施設5か所）にインタビュー

②本調査（2018年10～11月）（資料4）

・県内事業所（一般企業342社、福祉施設158か所、自治体34、合計534団体。そのうち、一般企業187社、福祉施設110か所、県内自治体22、合計319団体から回答）を対象にアンケート

予備調査は、本調査の質問内容を整備するため、また、高校生対象の質問と共通にできる項目を検討するために行った。対象とする事業所を山形県内に絞ったのは、入学者の大半が県内出身者と考えられるため、本学科の進路先は県内中心となることが予想されるためである。

なお、一般企業については、本学の人間科学部子ども教育学科及び短期大学部総合文化学科の卒業生が過去10年に就職している主な企業を中心に、幅広い業種にわたる企業から回答を得るために、山形県経営者協会の協力を得て、当該協会に加盟する一般企業を対象として選定した。また、福祉施設については本学短期大学部人間福祉学科の卒業生が就職している施設等を中心に、県内の福祉施設長会議の協力を得て、県内の福祉施設（小規模施設を除く）及び社会福祉協議会を対象として選定した。自治体は、山形県内の各市町村である。

アンケート結果から社会的、地域的需要として注目される点を取り上げる。

【問4】「貴事業所では、大学の専門分野において特に重視するものはありますか」では、福祉施設の回答に「社会学・福祉学」が92件（83.64%）と高い以外は、人間関係学科の他の専門分野への関心は見られなかった。ただし、自由記述欄に重視する専門分野は「特になし」という回答が多かったことから、ある特定の分野への需要ではなく、より一般的な能力の学修、育成に期待があるものと考えられる。

そのことは、【問5】「新学科（人間関係学科）では次のような授業形態を予定しています。期待されるものがあれば3つまでマークしてください」に対して、以下の「社会体験型授業」、「グループワーク型授業」、「インターシップ型授業」の3項目が全体的に高い回答となっていることから推測される。

「社会体験型授業」（一般企業105件（56.15%）、自治体17件（77.27%）、福祉施設87件（79.09%））

「グループワーク型授業」（一般企業74件（39.57%）、自治体14件

(63.63%)、福祉施設 60 件 (54.55%)

「インターンシップ型授業」(一般企業 64 件 (34.22%)、自治体 9 件 (40.91%)、福祉施設 37 件 (33.64%))

これらの数値は、実際に現場での対人的、組織的な協働業務に適応できる能力の育成を期待しているものと考えられる。人間関係学科が養成する人間関係力は、こうした期待に応えるものであり、設定した授業形態が的確であることを示している。

また、一般企業においては、「調査や観察する調査型授業」と「海外研究型授業」の2項目も高い回答を得ている。

「調査や観察をする調査型授業」(一般企業 57 件 (30.48%)、自治体 3 件 (13.64%)、福祉施設 28 件 (25.45%))

「海外研修型授業」(一般企業 40 件 (21.39%)、自治体 3 件 (13.64%)、福祉施設 6 件 (5.45%))

特に、「調査や観察をする調査型授業」は、心理総合コースにおける実験などを通じて培われるデータリテラシーや、福祉マネジメントコースにおける社会調査などの授業に関連するものであり、これらのコースの学修が、一般企業ニーズに応えられることを示している。

また、「海外研修型授業」は、グローバルコミュニケーションにおける異文化理解のためのプロジェクト学修が中心であり、一般企業では一定の関心が示されている。

さらに、【問6】「新学科(人間関係学科)では次のような授業科目を予定しています。期待されるものがあれば3つまで選んでマークしてください」に対しては、どの事業所でも圧倒的に「コミュニケーション力を高める科目」が高く(一般企業 133 件 (71.12%)、自治体 21 件 (95.45%)、福祉施設 83 件 (75.45%))、ついで「地域の産業の特性に関する科目」(一般企業 91 件 (48.66%)と自治体 11 件 (50%))、「高齢者や社会的弱者の支援に関する科目」(福祉施設 82 件 (74.55%))の順となっている。このうち、「地域の産業の特性に関する科目」は、グローバル化する地域産業理解のために、グローバルコミュニケーションコースに対応させたものである。

また、「高齢者や社会的弱者の支援に関する科目」は、福祉マネジメントコースの学修内容が対応する。そして、「コミュニケーション力を高める科目」は、人間関係学科が育成を目指す人間関係力の中核に据えているコミュニケーション力育成に関わる科目であり、単なる対人スキルのようなものにとどまらず、その背景となる人間性の本質的理解から社会組織的な変革まで学ぶものである。

次に、【問7】「貴事業所では、大学の教育課程で特に身につけてきてほし

いと考えるものはありますか。3 つまで選んでマークしてください」では、「アイデアを企画・発信する能力」(一般企業 128 件 (68.45%)、自治体 16 件 (72.73%)、福祉施設 55 件 (50%))、「共生・協働の能力」(一般企業 74 件 (39.57%)、自治体 16 件 (72.73%)、福祉施設 80 件 (72.73%)) が高い回答を得ている。これに対して、「専門的な学問の知識」(一般企業 41 件 (21.93%)、自治体 3 件 (13.64%)、福祉施設 22 件 (20%))、「特定の職業に直接的に役立つ知識や技能」(一般企業 15 件 (8.02%)、自治体 0 件 (0%)、福祉施設 25 件 (22.73%)) となっており、【問 4】で見られたような学問的な専門知識や専門職の知識・技能よりは、主体的・創造的な行動力や協調して事業を作り上げていく汎用性のある力が求められていることがわかる。総合的教養教育型の学科である人間関係学科の教育課程は、こうした需要に応えるものであるが、同時に、「生涯学び続ける姿勢」に対する回答が、一般企業 115 件 (61.56%)、自治体 11 件 (50%)、福祉施設 41 件 (37.27%) と比較的高いことから、生涯学習の場の形成も検討する必要があると思われる。

以上の【問 4】～【問 7】からは、全般的にあって、特定の専門分野の知識のみの学修ではなく、それをどう活かすかを、体験型学修を通じて修得し、職場や地域社会の課題解決に役立てることが期待されているものと考えられる。

これは設置の趣旨と必要性に掲げた人間関係学科の教育目的と合致するところであり、特に「コミュニケーション力」育成に対する高い関心については、本学が開学以来から培ってきた豊かな人間関係育成力をもって十分に応えることができる。

次に、【問 9】「貴事業所では、本学が設置を予定している『人間関係学科』に興味がありますか」では、「大いに興味がある」(一般企業 24 件 (12.83%)、自治体 1 件 (4.55%)、福祉施設 27 件 (24.55%))、「少し興味を感じる」(一般企業 84 件 (44.92%)、自治体 14 件 (63.63%)、福祉施設 62 件 (56.36%)) を併せると、一般企業が、108 件 (58.29%)、自治体が、15 件 (68.19%)、福祉施設が、89 件 (80.91%) となり、概ね関心があるととらえることができる。

さらに【問 10】「貴事業所では、本学が設置を予定している『人間関係学科』で学んだ学生を採用してみたいと思われませんか」に対しては、一般企業は、「大いにそう思う」17 件 (9.09%)、「ある程度そう思う」81 件 (43.32%) で、合わせて 98 件 (52.41%)、自治体は、同じ 2 項目が、3 件 (13.64%) と 7 件 (31.82%) で、合わせ 10 件 (45.46%)、福祉施設は、同じく 33 件 (30%) と 45 件 (40.91%) で、合わせて 78 件 (70.91%) となり、一般企業、自治体、福祉施設を合計すると 319 件の回答のうち、「大いにそう思う」

が 53 件 (16.61%)、「ある程度そう思う」が 133 件 (41.69%) となり、両者を併せると 186 件 (58.31%) となる。定員設定に関する章において既に述べたところではあるが、ここから新設学科への採用に関する期待が確認できる。

なお、アンケートの末尾に「本学へのご意見・ご要望」という自由記述欄を設けた。このなかで、事業所の関心がやや低い傾向にある「心理学」に対する期待ととらえられる回答をあげておきたい。

- (a) 「将来、メンタルに関する部門を考えている。担当者としては有益な学部だと思う」
- (b) 「製造業の会社が文系学部卒の社員に求める仕事は、経理（会計、原価管理）、総務人事（衛生管理、産業カウンセラー）が主です。これに加え対人関係が得意であれば営業職も考えられます。数学に強い方は企業での活躍の機会が多く、これに加えて課題を能動的に解決する力があれば、出世して、より責任のあるポジションを獲得できると考えます。お役に立てる意見かどうかわかりませんが、何卒よろしくお願ひします」

(a) について、山形県はほとんどが中小企業であり、今回の調査対象もそうであるが、一般的に大企業に見られるメンタル部門が、今後は地方企業でも課題となっていることを推測させるものであり、心理学の専門的知識を活かせる場が将来的に期待できる。

(b) について、総務人事に心理学を活かせる需要が見出されるが、さらに「数学に強い」という点は、統計的な知識に関連するものと考えられ、心理学を通じて養われるデータリテラシーがアドバンテージとなりうると思われる。

最後に、資格に関しての【問 11】「貴事業所では、以下の資格の中で、特に有益と考えるものはありますか」には、自治体 15 件 (68.18%) と福祉施設 107 件 (97.27%) において、社会福祉士資格に対して有益との非常に高い結果が出たので、この資格取得者の養成に需要が認められる。

以上のように、社会的、地域的な人材養成の需要に対して、人間関係学科の教育目的は十分対応できると考える。

今回の調査では、高校生の回答と事業所の回答が比較できる質問をいくつか用意した。

入学段階での高校生の興味と出口段階での事業所側の希望がどのような相関性を持つのか、教育課程や教育方法の工夫に結びつくと考えてのこと

である（資料5）。

特に注目しているのは、高校生アンケートの【問5】「大学で身につけたいもの」と事業所アンケートの【問7】「大学で身につけてほしいもの」の回答結果である。この二つの問いには、回答に同じ選択肢を用意しているが、高校生（大学進学希望者のみ）は、「専門的な学問の知識」991人（61.3%）、「特定の職業に直接的に役立つ力」701人（43.4%）、「多様な職業に役立つ知識や技能」859人（53.1%）が高く、事業所は、「アイデアを企画・発信する力」199件（63.3%）、「共生・協働の能力」170件（55.2%）、「生涯学び続ける姿勢」167件（52.7%）が高い。この結果から、高校生は専門的な学問にふれたいという希望が強くある一方で、将来の就職に備えて職業的な能力をも身につけたいと考えていると見られる。後者は、おそらく高校生の資格志向ととらえることができる。

他方、事業所側は、専門的な学問の知識には興味が無いように思われ、何を専門としたかよりも、構想する力、発信する力などの主体的な積極性と何ごとにも学べる姿勢を持っているかに興味を示しているように思われる。

この問いからは、教育課程において一定の専門的な学問の領域を確保すべきこと、人間関係を学ぶなかにコミュニケーション学や心理学、社会福祉学の専門的な学問の分野がコースとして建てられていることが高校生のニーズに応えるものとなるといえる。と同時に、事業所の回答で高かったものが「生涯学び続ける姿勢」であった。この姿勢を身につけるには、大学における専門分野の学修を通じて、確かな学修方法の軸となるものを形成することが肝要である。このことから専門的な学問分野をコースとして設定することは必要であるといえる。

そして、人間関係の学修は、実際の社会生活、職場などにおける就労に耐えうる社会人基礎力に対応する力を養うものになる。事業所の回答で数値が高かった「アイデアを企画・発信する力」は、構想力や想像力に関わるものだが、これらは「協働」すなわちコラボレーションによって生み出されるものである。既存の価値を異なる他者の視点とのコラボによって新たな価値に変換していく、それが創造することであり構想することである。その意味で、人間関係の学修は事業所が求める能力に応えうるはずである。

また、人間関係学科では、資格として認定心理士と社会福祉国家試験受験資格を取ることが可能である。図書館司書、準デジタル・アーキビストも「自由科目」単位をとれば取得できる。これらが高校生の資格志向に応えるものとなる。

加えて、事業所に対しては、「海外研修」「社会体験」、さらには「中心科目」などの体験型の学修が他の科目の学修と連動していく教育課程によって、

現場で考える力、変化する社会に対応して学び続ける姿勢を養えるものといえる。

添付資料一覧

| | | |
|------|------------------------|--------|
| 資料 1 | 高校生対象ニーズ調査「学んでみたい科目」 | 1 ページ |
| 資料 2 | 定員充足状況 2015 年度～2019 年度 | 3 ページ |
| 資料 3 | ニーズ調査「高校生対象アンケート」結果報告書 | 5 ページ |
| 資料 4 | ニーズ調査「事業所対象アンケート」結果報告書 | 27 ページ |
| 資料 5 | 共通質問の高校生と事業所の比較 | 57 ページ |

平成26～30年度卒人間福祉学科進路状況

東北文教短期大学部

(単位:人)

| 卒業年度 | 学科 | 卒業者数 | 就職希望者数 | 就職者数 | 活動中 | 就職率 | 進学者数 | | | 家事従事者 | 一時的な仕事 |
|--------------------|--------|------|--------|--------|--------|------------|------|------|----|-------|--------|
| | | | | | | | 編入 | 専門学校 | 留学 | | |
| 平成26年度 (H27.3卒) | 人間福祉学科 | 73 | 専門職 67 | 専門職 67 | 専門職 0 | 専門職 100% | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | | | 一般企業 3 | 一般企業 2 | 一般企業 1 | 一般企業 66.7% | | | | | |
| | | | 計 70 | 計 69 | 計 1 | 計 98.6% | | | | | |
| 平成27年度 (H28.3卒) | 人間福祉学科 | 58 | 専門職 56 | 専門職 56 | 専門職 0 | 専門職 100% | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| | | | 一般企業 0 | 一般企業 0 | 一般企業 0 | 一般企業 100% | | | | | |
| | | | 計 56 | 計 56 | 計 0 | 計 100% | | | | | |
| 平成28年度 (H29.3卒) | 人間福祉学科 | 65 | 専門職 62 | 専門職 62 | 専門職 0 | 専門職 100% | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | 一般企業 3 | 一般企業 2 | 一般企業 1 | 一般企業 66.7% | | | | | |
| | | | 計 65 | 計 64 | 計 1 | 計 98.5% | | | | | |
| 平成29年度 (H30.3卒) | 人間福祉学科 | 45 | 専門職 43 | 専門職 43 | 専門職 0 | 専門職 100% | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | 一般企業 2 | 一般企業 2 | 一般企業 0 | 一般企業 100% | | | | | |
| | | | 計 45 | 計 45 | 計 0 | 計 100% | | | | | |
| 平成30年度 (H31.3卒) | 人間福祉学科 | 36 | 専門職 33 | 専門職 33 | 専門職 33 | 専門職 100% | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | 一般企業 3 | 一般企業 3 | 一般企業 0 | 一般企業 100% | | | | | |
| | | | 計 36 | 計 36 | 計 36 | 計 100% | | | | | |

■定員充足状況2015年度～2019年度

1. 人間科学部子ども教育学科

| | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 合計 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| 定員 | 90 | 90 | 90 | 90 | 90 | 450 |
| 志望者 | 167 | 158 | 179 | 179 | 197 | |
| 合格者 | 151 | 148 | 167 | 170 | 176 | |
| 入学者 | 70 | 89 | 90 | 87 | 101 | 437 |
| 充足率% | 77.8 | 98.9 | 100 | 96.7 | 112.2 | 97.1 |

2. 短期大学部総合文化学科

| | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 合計 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| 定員 | 80 | 80 | 80 | 80 | 60 | 380 |
| 志望者 | 67 | 82 | 54 | 82 | 71 | |
| 合格者 | 65 | 75 | 52 | 76 | 66 | |
| 入学者 | 50 | 64 | 42 | 58 | 57 | 271 |
| 充足率% | 62.5 | 80 | 52.5 | 72.5 | 95 | 71.3 |

3. 短期大学部子ども学科

| | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 合計 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 定員 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 500 |
| 志望者 | 118 | 107 | 109 | 120 | 112 | |
| 合格者 | 115 | 106 | 109 | 117 | 108 | |
| 入学者 | 104 | 100 | 101 | 110 | 103 | 518 |
| 充足率% | 104 | 100 | 101 | 110 | 103 | 103.6 |

4. 短期大学部人間福祉学科

| | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 合計 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| 定員 | 80 | 80 | 80 | 80 | 60 | 380 |
| 志望者 | 70 | 46 | 43 | 39 | 36 | |
| 合格者 | 70 | 46 | 43 | 34 | 35 | |
| 入学者 | 68 | 44 | 38 | 34 | 33 | 217 |
| 充足率% | 85 | 55 | 47.5 | 42.5 | 55 | 57.1 |

5. 短期大学部全体

| | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 合計 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| 定員 | 260 | 260 | 260 | 260 | 220 | 1260 |
| 志望者 | 255 | 235 | 206 | 241 | 219 | |
| 合格者 | 250 | 227 | 204 | 227 | 209 | |
| 入学者 | 222 | 208 | 181 | 202 | 193 | 1006 |
| 充足率% | 85.4 | 80 | 69.6 | 77.7 | 87.7 | 79.8 |

6. 学部・短大全体

| | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 合計 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| 定員 | 350 | 350 | 350 | 350 | 310 | 1710 |
| 志望者 | 422 | 393 | 385 | 420 | 416 | |
| 合格者 | 401 | 375 | 371 | 397 | 385 | |
| 入学者 | 292 | 297 | 271 | 289 | 294 | 1443 |
| 充足率% | 83.4 | 84.8 | 77.4 | 82.6 | 94.8 | 84.3 |

ニーズ調査「高校生対象アンケート」結果報告書

【問1】あなたの性別についてマークしてください。

- 男性
- 女性

| 問1 あなたの性別は？ | | | |
|-------------|------|-------|---------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：1.60 |
| 男性 | 1041 | 39.85 | |
| 女性 | 1565 | 59.92 | |
| 無回答 | 6 | 0.23 | |

* 回答者の男女比は、ほぼ男性4：女性6である。



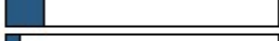
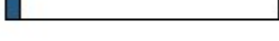
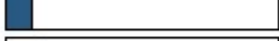
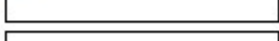

| 問1 あなたの性別は？ | | | |
|-------------|-----|-------|---------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：1.55 |
| 男性 | 718 | 44.40 | |
| 女性 | 895 | 55.35 | |
| 無回答 | 4 | 0.25 | |

* 問2で「大学進学」と答えた回答者に限ると男性44.40%、女性55.35%とやや男性が多い。

【問2】あなたは高校卒業後どのような進路を考えていますか。次の中から1つだけマークしてください。

- 大学進学
- 短期大学進学
- 専門学校進学
- 進学か就職か検討中である
- 就職 →「就職」を選択された方はここで終了となります。
- その他（ ）
→「その他」を選択し、その内容が進学に繋がらないような場合はここで終了となります。

001

| 問2 高校卒業の進路は？ | | | |
|--------------|------|-------|--|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：1.97 |
| 大学進学 | 1617 | 61.91 |  |
| 短期大学進学 | 180 | 6.89 |  |
| 専門学校進学 | 380 | 14.55 |  |
| 進学か就職課検討中 | 155 | 5.93 |  |
| 就職 | 265 | 10.15 |  |
| その他 | 12 | 0.46 |  |
| 無回答 | 3 | 0.11 |  |

*大学進学者は、回答者の61.91%。短大も入れると68.8%。

以下は、高校生全体の回答結果と【問2】で「大学進学」と答えた回答者の結果を併記し分析していく。

【問3】あなたが進学し、学びたいと考えている分野を次の中から第2希望までマークしてください。

第1 第2

- ○ 語学・文学関係（史学、哲学等を含む）
 ○ ○ 心理学関係
 ○ ○ 社会学・福祉学関係
 ○ ○ 教育学・保育学関係
 ○ ○ 法学・政治学関係
 ○ ○ 経済学・経営学関係
 ○ ○ 理学・工学関係
 ○ ○ 医学・歯学・薬学関係
 ○ ○ 看護・医療技術関係
 ○ ○ 芸術学関係
 ○ ○ その他（ ）

| 問3-1 進学後学びたい分野 第1希望 | | | |
|---------------------|-----|-------|---------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：5.65 |
| 語学・文学関係 | 379 | 14.51 | |
| 心理学関係 | 127 | 4.86 | |
| 社会学・福祉学関係 | 132 | 5.05 | |
| 教育学・保育学関係 | 387 | 14.82 | |
| 法学・政治学関係 | 138 | 5.28 | |
| 経済学・経営学関係 | 336 | 12.86 | |
| 理学・工学関係 | 100 | 3.83 | |
| 医学・歯学・薬学関係 | 40 | 1.53 | |
| 看護・医療技術関係 | 220 | 8.42 | |
| 芸術学関係 | 173 | 6.62 | |
| その他 | 276 | 10.57 | |
| 無回答 | 303 | 11.60 | |
| 複数 | 1 | 0.04 | |

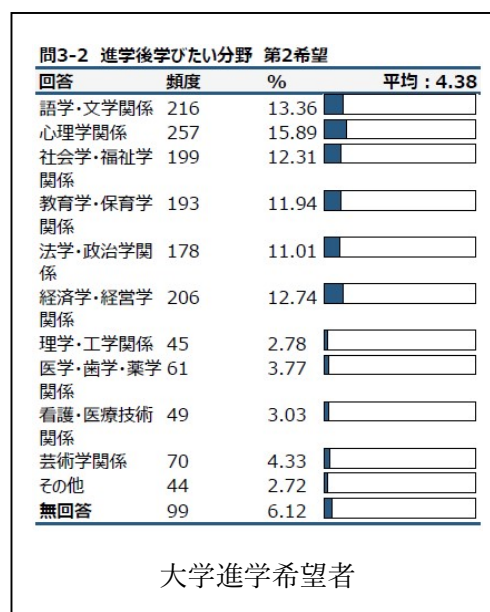
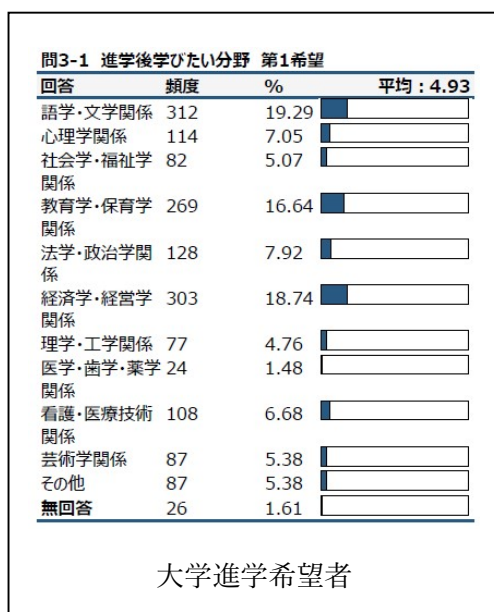
高校生全体

| 問3-2 進学後学びたい分野 第2希望 | | | |
|---------------------|-----|-------|---------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：4.76 |
| 語学・文学関係 | 279 | 10.68 | |
| 心理学関係 | 331 | 12.67 | |
| 社会学・福祉学関係 | 273 | 10.45 | |
| 教育学・保育学関係 | 291 | 11.14 | |
| 法学・政治学関係 | 190 | 7.27 | |
| 経済学・経営学関係 | 243 | 9.30 | |
| 理学・工学関係 | 64 | 2.45 | |
| 医学・歯学・薬学関係 | 106 | 4.06 | |
| 看護・医療技術関係 | 114 | 4.36 | |
| 芸術学関係 | 122 | 4.67 | |
| その他 | 113 | 4.33 | |
| 無回答 | 486 | 18.61 | |
| 複数 | 0 | 0.00 | |

高校生全体

【全体】

*第1希望は、「語学・文学」が最も高く、次いで「教育学・保育学」、「経済学・経営学」となる。「社会学・福祉学」、「心理学」の第1希望は少ない。しかし、第2希望では、「心理学」が最も高く、「語学・文学」、「社会学・福祉学」も高い。

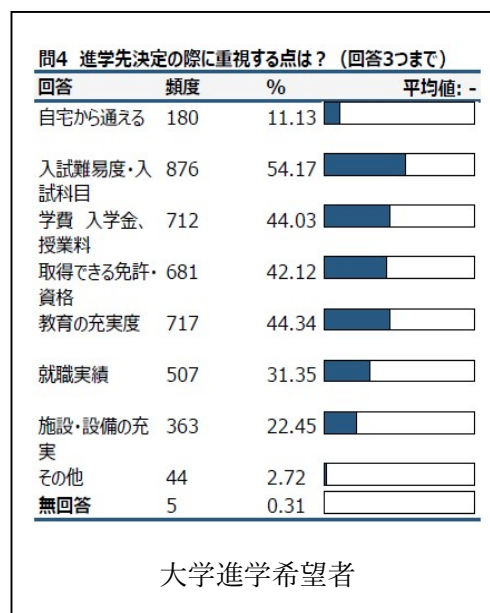
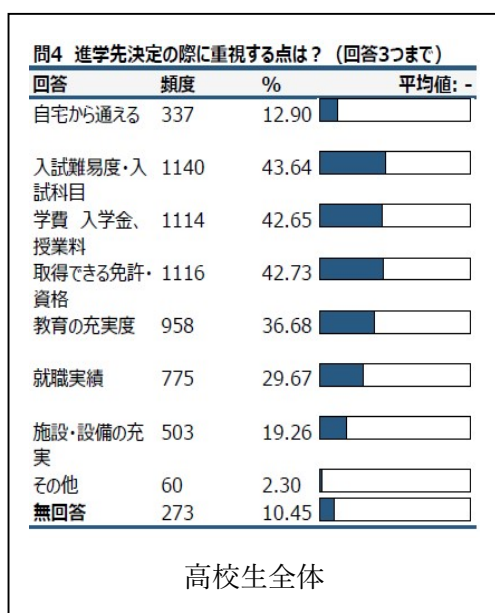


【大学のみ】

*第1希望は、「語学・文学」が最も高く、次いで「経済学・経営学」、「教育学・保育学」となる。しかし、第2希望では、「心理学」が最も高く「社会学・福祉学」、「語学・文学」も高い。【全体】とほぼ同じ結果であり、第1希望、第2希望を合わせれば、「語学・文学」、「心理学」、「社会学・福祉学」の3分野に対する興味が確認できる。

【問4】あなたが進学先を決定する際に重視することはどれですか。次の中から3つまでマークしてください。

- 自宅から通える
- 入試難易度・入試科目
- 学費（入学金、授業料）
- 取得できる免許・資格
- 教育の充実度
- 就職実績
- 施設・設備の充実
- その他（ ）



【全体】

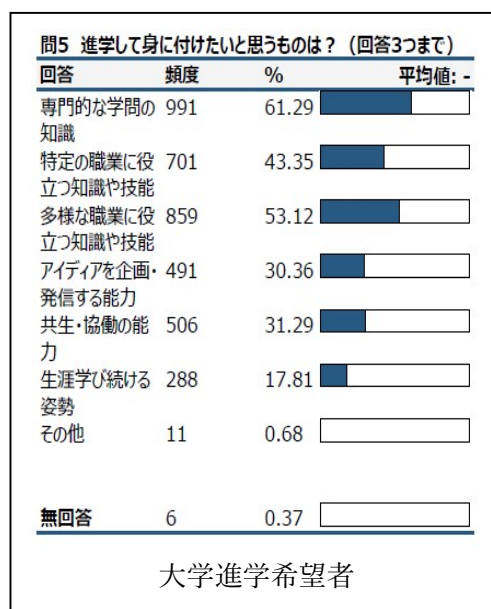
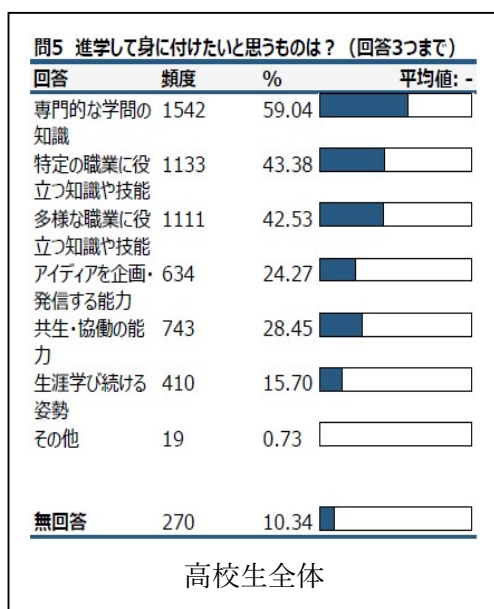
* 「入試難易度・入試科目」、「学費」とほぼ同じく、「取得できる免許・資格」が高い。次いで、「教育の充実度」が高い。

【大学のみ】

* 「入試難易度・入試科目」が非常に高く、また「学費」も高い。この2つは【全体】の数値よりも高めである。4年制進学の特徴であると思われる。同時に「取得できる免許・資格」と「教育の充実度」が高いこと、「就職実績」も関心が比較的高い点は重要である。

【問5】あなたが進学して身に付けたいと思うものは何ですか。次の中から3つまでマークしてください。

- 専門的な学問の知識
- 特定の職業に直接的に役立つ知識や技能
- 幅広く多様な職業に役立つ汎用的な知識や技能
- 自発的に意見・アイデアを企画・発信する能力
- 多様な人同士が助け合い補い合う共生・協働の能力
- 新しいことにチャレンジし生涯学び続ける姿勢
- その他 ()



【全体】

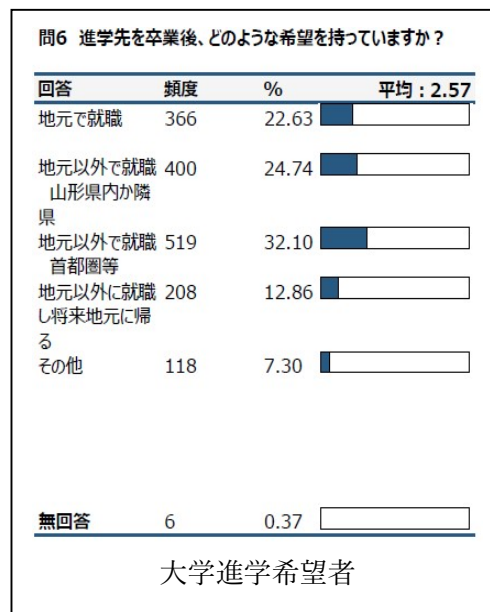
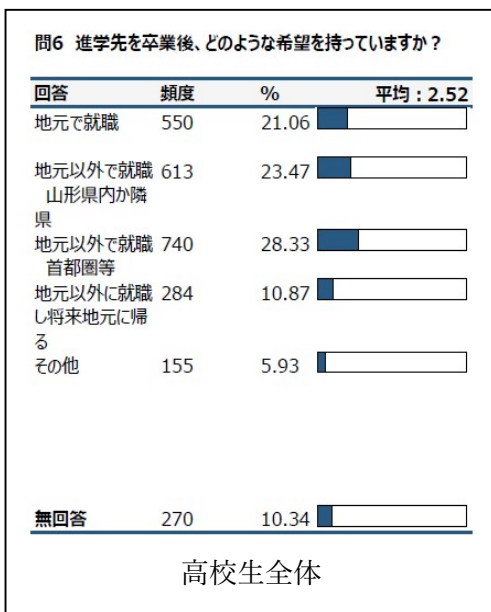
* 「専門的な学問の知識」が高い。次いで、「特定の職業に役立つ知識」や「技能、多様な職業に役立つ知識や技能」となっている。「アイデアを企画・発信する能力」、「共生・協働の能力」は低く、特に「生涯学び続ける姿勢」は低い。

【大学のみ】

* 「専門的な学問の知識」が最も高い。次いで「多様な職業に役立つ知識や技能」であり、この2つが非常に高い。次いで「特定の職業に役立つ知識や技能」、「共生・協働の能力」、「アイデアを企画・発信する能力」の順で、「生涯学び続ける姿勢」は【全体】と同じく低い数値に留まる。【全体】と比べて、「専門的な学問の知識」への関心は同じように高いものの、「多様な職業に役立つ知識や技能」が高い点に大学進学者の特徴が見られる。

【問6】あなたの将来の希望についておたずねします。あなたは進学先を卒業後、どのような希望を持っていますか。次の中から1つだけマークしてください。

- 地元で就職したい
- 地元以外（ただし山形県内か隣県地域）で就職したい
- 地元以外（首都圏等）で就職したい
- 地元以外にいったん就職し将来は地元に戻りたい
- その他（)



【全体】

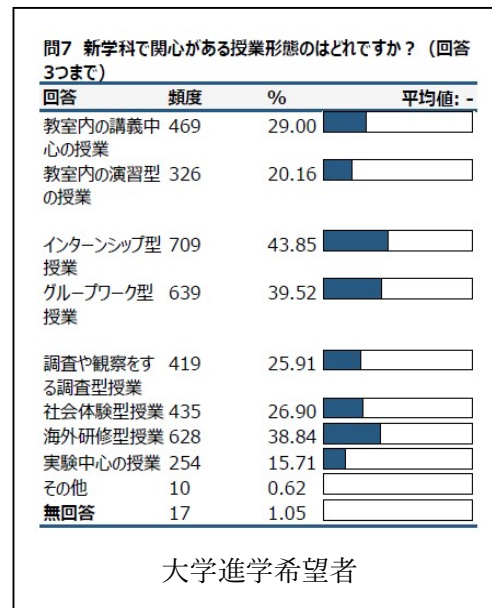
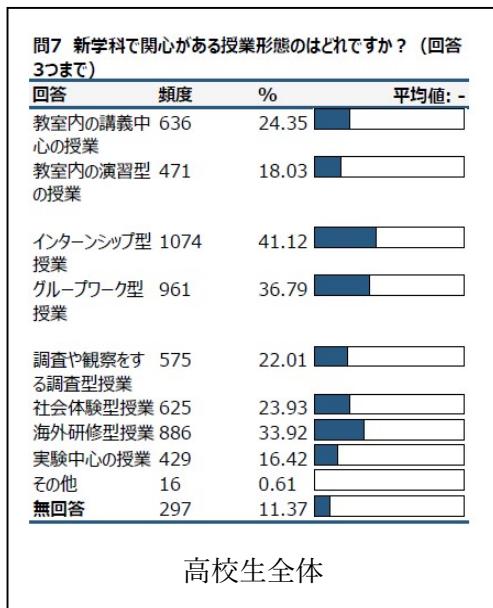
* 「地元以外（首都圏等）」が最も高いが、「地元で就職」「地元以外（山形県内か隣県）」を合わせると44.53%になる。

【大学のみ】

* 「地元以外（首都圏等）」が最も高く、次いで「地元以外（山形県内か隣県）」、「地元で就職」の順となり、後2者を合わせると47.37%となる。

【問7】新学科（人間関係学科）では次のような授業形態を予定しています。関心があるのはどれですか。次の中から3つまでマークしてください。

- 教室内で行う講義中心の授業
- 教室内で課題に取り組む演習型の授業
- 企業や役所で研修するインターンシップ型授業
- 共同で作業するグループワーク型授業
- さまざまな調査や観察をする調査型授業
- 地域社会の人たちから学ぶ社会体験型授業
- 語学研修や異文化体験学修を行う海外研修型授業
- 実験室で行う実験中心の授業
- その他（ ）



【全体】

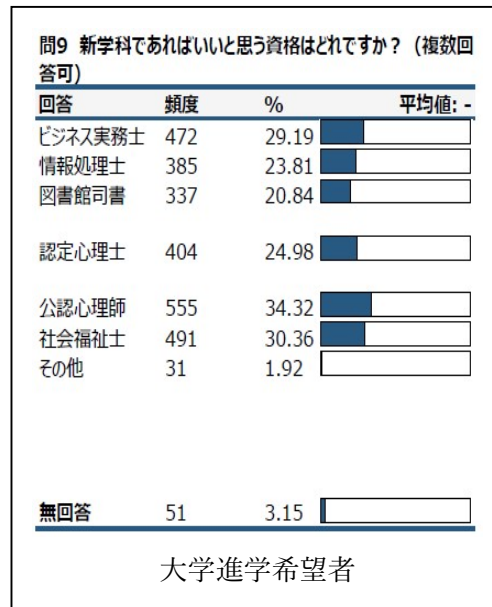
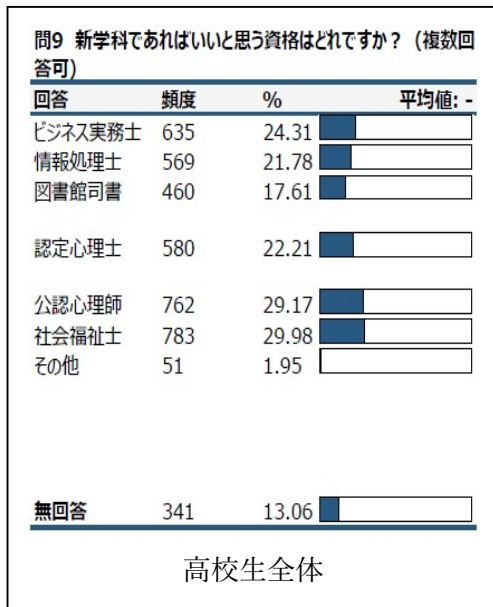
*「インターンシップ型」が高く、次いで「グループワーク型」、「海外研修型」が高い。

【大学のみ】

*「インターンシップ型」が高く、次いで「グループワーク型」、「海外研修型」が高いが、【全体】に比して、「教室内の講義中心の授業」がやや高く、「社会体験型」も若干高い。

【問9】新学科（人間関係学科）で取得できる資格として、あればいいと思うのはどれですか。次の中からマークしてください。（複数回答可）*各資格の概要は最初のページの右側をよく読んでください。

- ビジネス実務士
- 情報処理士
- 図書館司書
- 認定心理士
- 公認心理師（国家試験受験資格）
- 社会福祉士（国家試験受験資格）
- その他（ ）



【全体】

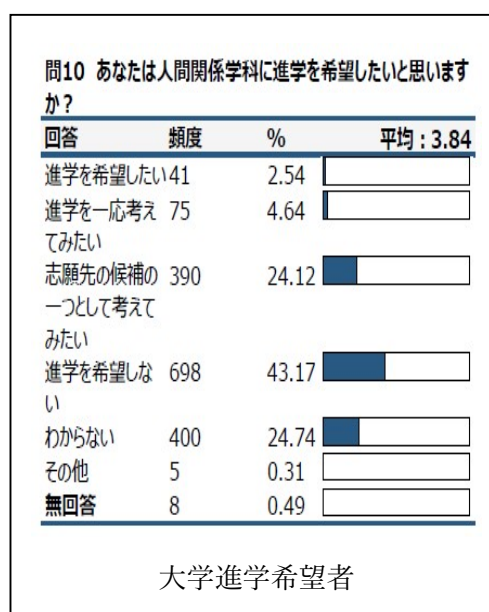
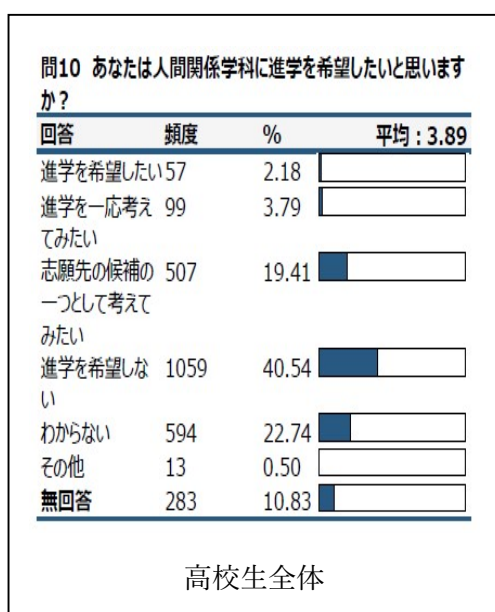
* 「公認心理師」、「社会福祉士」が高い。次いで、「ビジネス実務士」、「情報処理士」となっている。

【大学のみ】

* 「公認心理師」、「社会福祉士」が高いが、「ビジネス実務士」も高く、次いで「認定心理士」「情報処理士」、「図書館司書」の順で、いずれの数値も【全体】に比べると高めである。

【問 10】あなたは東北文教大学人間科学部に設置予定の「人間関係学科」に進学を希望したいと思いますか。次の中から1つだけマークしてください。

- 進学を希望したい
- 進学を一応考えてみたい
- 志願先の候補の一つとして考えてみたい
- 進学を希望しない
- わからない
- その他 ()



【全体】

* 「進学希望」、「一応考える」、「候補の一つ」を合わせると 25.38%になる。

【大学のみ】

* 「進学希望」、「一応考える」、「候補の一つ」を合わせると 31.3%となり、【全体】よりもやや高い。大学進学希望者のみであるための結果と考えられるが、3割が興味を示している。

001

本学に対するご意見・ご要望があればお書きください。

結果について

1、 学びたい分野について

【全体】では、第1希望、第2希望を合わせると「教育学・保育学」が最も高いが、【大学のみ】では、「語学・文学」、「経済学・経営学」、「教育学・保育学」の順になる。また、「心理学」、「社会学・福祉学」も関心が認められる数値といえる。【全体】【大学のみ】ともに「経済学・経営学」の数値が高いが、これは、将来の就職に有利というイメージの反映と思われる。次項以降に指摘する資格志向や就労能力への関心とつながるものといえる。

2、 進学決定のポイント

【大学のみ】で「入試難易度・入試科目」と「学費」が非常に高いのは、短大などとの違いと言える。同時に「教育の充実度」が「学費」と同程度の数値であることは重要なポイントと言える。また、【全体】【大学のみ】ともに「資格・免許」に関心が高い。教育・保育系の希望者が比較的多かったためとも考えられるが、高校生の資格志向の表れと見ることができる。

3、 身につけたい知識や能力について

【全体】【大学のみ】ともに「専門的な学問の知識」が非常に高いことから、専門分野の学修への期待が高いといえる。その一方で、「特定の職業に役立つ知識や技能」、「多様な職業に役立つ知識や技能」など、卒業後の就労を意識した能力の修得に高い関心を持っている。特に【大学のみ】では、「多様な職業に役立つ知識や技能」の高さが目立つ。しかし、【全体】【大学のみ】ともに「アイデアを企画・発信する能力」や「共生・協働の能力」など具体的に事業所側が必要とするような能力への関心はやや低く、特に「生涯学び続ける姿勢」には関心が低い。

4、 卒業後の希望

【全体】【大学のみ】ともに首都圏等への就職希望が高いが、地元志向も強いことが確認できる。将来も含めて、地元で働いて暮らせることに有利と思えるものがあれば大学選択の1つの指標となりうるものと考えられる。

5、 授業形態について

インターンシップ、グループワーク、海外研修、いずれも体験型の形態であり、理論的な知識の受容と体験による知識の意味の吸収というバランスが教授方法に取

り入れられることの有効性を確認できる。また、【大学のみ】では、「教室内の講義中心の授業」にも比較的関心が見られ、座学と体験型学修のバランスと相互関が重要だと考えられる。

6、 学びたい科目

【全体】【大学のみ】ともに「人間行動の理解」、「コミュニケーション力を高める」が非常に高い。いずれも人間関係学科の中核となるテーマであり、学科の教育目的、教育課程への需要が確認できる。また【大学のみ】では、全般的に各項目の数値が高く、人間関係学科を構成する各分野への関心を確認できる。

7、 興味のある資格について

【全体】【大学のみ】ともに「公認心理師」と「社会福祉士」に関心が高い。専門職に就くうえで有効性の高い資格を選んでいる。しかし、【大学のみ】では「認定心理士」も高く、必ずしも専門職直結の資格を志向しているとは言い切れない。むしろ、「ビジネス実務士」にも興味を示していることは、一般的な就労能力を養えることに対する関心が資格の選択に反映した結果ではないかと考えられる。図書館司書も比較的関心が高い。

8、 人間関係学科への進学希望

【大学のみ】では「進学希望」「一応考えたい」「候補の一つ」までを含めて志願可能性のあるものと考えると31.3%となり、一定数の志願者が見込まれる。

【自由記述】

高校生

【問4】「進学先決定の際に重視する点は？」

その他（自由記述）

- ・大学のブランド（5件）
- ・評判
- ・大学の環境
- ・大学付近の環境
- ・寮があるかどうか
- ・部活動（5件）
- ・学業と部活動共にレベルが高いこと
- ・旧帝国大等のレベルの高い研究力・教授と学ぶこと
- ・大学の雰囲気（2件）
- ・生徒の雰囲気（2件）
- ・人数
- ・人
- ・学習内容
- ・国家試験合格率
- ・将来就きたい職に関連するか
- ・自分の夢に近づける（2件）
- ・起業
- ・自分が学びたいことがあるかどうか（2件）
- ・やりたいこと
- ・面白さ（2件）
- ・自由度
- ・自分が本当に行きたいかどうか
- ・留学（2件）
- ・仏教学が学べるかどうか
- ・県内か隣県であること
- ・近くの県であるか
- ・県外（2件）
- ・立地条件（2件）
- ・ほどよい都会さ

- ・土地が関東
- ・大学の場所（東京）
- ・関東のほうに行き、世の中の経済を見る
- ・その町がさかえているかどうか
- ・住みたい土地

【問5】「進学して身につけたいと思うものは何ですか？」

その他（自由記述）

- ・自分のやりたい事に繋がる知識
- ・学歴で十分（3件）
- ・コミュニケーション能力（3件）
- ・外国語力
- ・マーケティング
- ・生き抜く力
- ・物事を広い視野から見れる能力
- ・処世術
- ・部活動
- ・夢
- ・専門的な技術
- ・高い技術
- ・自由なイメージができる

【問6】「進学先を卒業後の希望は？」

その他（自由記述）

- ・海外（11件）
- ・日本
- ・就職しようと思っているが留学してみたい
- ・別の学問を学ぶため大学に通いたい
- ・地元で就職し、将来首都圏で就職したい
- ・地元でいったん修飾子、将来は地元以外
- ・地元、もしくは県内か隣県
- ・地元か山形県内
- ・美術教員の枠が空いていたら山形で就職したい
- ・地方～首都圏外まで

- ・地元から海外
- ・いったん山形で就職し、将来は群馬に帰りたい
- ・できれば地元で働きたいが公務員等、とりあえず働く予定までしか決まっていないので
- ・希望する職業によって変化する（例：自衛官→広島県、高校教師→山形県）
- ・関西方面
- ・活動場所は固定しない職業に就きたい
- ・小説家
- ・アニメ関係ならどこでも
- ・どこでもよい（20件）
- ・特になし／特に考えていない（11件）
- ・わからない／未定（51件）

【問7】「新学科で関心がある授業形態はどれですか？」

その他（自由記述）

- ・海外
- ・実習型
- ・よくわからない
- ・特になし（3件）

【問8】「新学科で学んでみたい科目は？」

その他（自由記述）

- ・いじめ、パワハラ、セクハラ等の人間関係系問題
- ・保育
- ・工業、産業
- ・医療系
- ・資産の投資、運用
- ・特になし（4件）

【問9】「新学科であればいいと思う資格はどれですか？」

その他（自由記述）

- ・教員免許（4件）
- ・司書教諭

- ・学芸員（2件）
- ・臨床心理士
- ・医療事務
- ・日本語技能
- ・保育士
- ・精神保健福祉士（2件）
- ・看護師免許
- ・応用情報技術者試験
- ・建築士
- ・特になし（5件）

【問 10】「あなたは人間関係学科に進学したいと思いますか？」

その他（自由記述）

- ・専門学校卒業後に進学を考えてみたい
- ・東北文教の他の学科に入りたい
- ・子ども教育学科の方に進学したい
- ・興味はあるが都合上行けない
- ・東北文教大に行く気はないが、他の大学にあれば興味はある
- ・興味ない（4件）

「本学についてご意見・ご要望があればお書き下さい」

- ・文科省が文学部や人間科学部の廃止を考えているとネットで見たので、少し心配です。
自分は好きですけど
- ・新学科では私の興味のある分野もあり、これからの進路決定に役立てたいと思いました。
- ・人間関係の学部はとても興味深いと感じました
- ・ボランティア活動を多く行っている点は良いと思う
- ・いつからつくるのか知りたいです。もしできるのが来年度であれば絶対に第一希望の大学にします
- ・自分自身の志望先の一つとして考えてみたいと思ったので設置をできるだけ早くしてほしい
- ・新しい学科にとっても興味を持ちました。いつ設置されるのかなど知りたいです
- ・人間関係学科で予定されている科目がどれも学んでみたいと思いました
- ・幅広く知識を得られると思う学科なので良いと感じました

- ・新たな学科として、魅力がある学科だと思った
- ・興味があるのがたくさんあった
- ・どの学科にもすごく興味を持っています
- ・すごく良いと思う
- ・東北文教大学は、子ども学科があり、保育士を目指す大学だと思っていたけれど、新学科でグローバルなど将来に必要であろう英語が加わってきていいと思う
- ・新学科についてオープンキャンパス等でくわしく内容をきくことができるか
- ・取得できる資格が幅広く素晴らしいと思った
- ・公認心理師の国家試験受験資格取得に対応した学科を設置していただけると、公認心理師を目指している身としてはとてもありがたいです
- ・公認心理師、社会福祉士の資格をとれるように早くしてほしいです
- ・ビジネス実務士や情報処理士の資格は貴校ならではの特色ではないので、公認心理師や社会福祉士等の参入する学校のあまりない分野に注力した方がいいと思う
- ・資格の取る幅が少し狭いように感じる。外国でも役立つスキルを学びたいのでそこも少しでも入れれば変わると思う
- ・異文化理解をより深めるために、留学生との交流や実際に研修を行う時間を多くしてほしい
- ・公認心理師の資格を取得するため東北文教大学で6年間学ぶことができますか？
- ・海外研修が良いと思う
- ・新しい「人間関係学科」に進学することで具体的にどのような職に就くことが可能になるのか、よりくわしく知りたいと思いました
- ・学費を安くしてほしい（3件）
- ・特待の枠、授業料の削減
- ・通いやすい環境にしてほしい
- ・どのくらいの学力で行けるのか、学費は？
- ・学部名をもっと良いものに変更してもらいたい
- ・建物が古い
- ・通学が困難
- ・進学したとき、駅から遠い
- ・特になし（80件）

東北文教大学人間科学部における 新学科設置に関するアンケート調査票

変化の激しい現代社会において、職場のみならず地域の生活においても、高度な知識とそれを活かすコミュニケーション能力や課題発見・解決能力などが必要といわれています。東北文教大学はそうした能力を身に付け、地域で活躍できる人を育てたいと考え、人文社会系の新しい学科の設置を計画しています。

このアンケートは、新学科の内容に関して高校生のみなさんの考えを把握し、設置計画の基礎資料とするものです。みなさんのご協力をお願いします。

なお、調査票は無記名です。回答の記入はマークシート方式ですので、記入上のお願いをよく読んで回答してください。また、調査結果は統計資料としてのみ用い、他の目的に使用することはありません。

■新学科の概要

○新学科名＝人間関係学科

○教育目標＝複雑化する現代における人間関係について理解する力と人間関係を構築していく力を養い、地域社会の共生・協働に資する人材を育てる。

○3つのコース＝人間関係学科には、3つのコースを設ける。

東北文教大学

人間科学部

子ども教育学科（既存学科）

人間関係学科（新学科）

◎心理総合コース

心理学を通して人間行動をより広く理解し、多様な局面に応用できる力を養うコース

◎言語コミュニケーションコース

グローバル化や多文化共生に対応する語学力や異文化理解の能力を養うコース




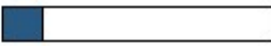
◎福祉マネジメントコース

社会福祉の知見を活かし地域社会をコーディネートする力を養うコース

ニーズ調査「事業所対象アンケート」結果報告書

【問1】貴事業所（本社）の所在地についておたずねします。該当する項目をマークしてください。

- 村山地方
- 置賜地方
- 最上地方
- 庄内地方

| 問1 事業所の所在地 | | | |
|------------|-----|-------|---|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：1.83 |
| 村山地方 | 189 | 59.25 |  |
| 置賜地方 | 45 | 14.11 |  |
| 最上地方 | 36 | 11.29 |  |
| 庄内地方 | 49 | 15.36 |  |

問1

*本学の所在地である村山地方が59.25%となった。

【問2】 貴事業所の業種をおたずねします。該当する項目をマークしてください。

- 製造業
- 販売・サービス業
- 金融業
- 複合サービス業
- 通信・IT関連業
- 流通・運送業
- 医療・福祉関連業
- 自治体・同関連団体
- その他（ ）

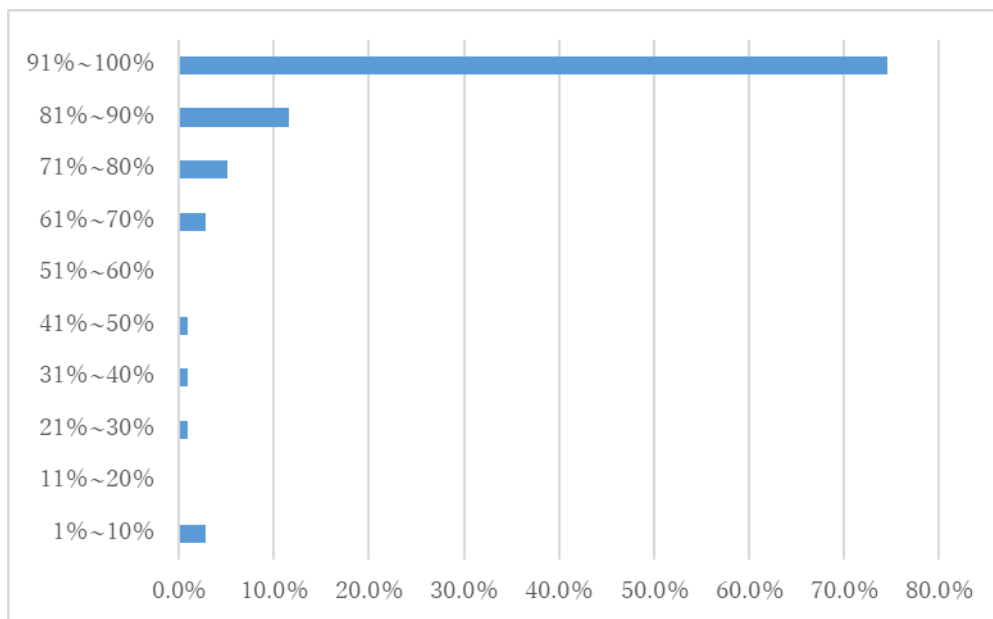
| 問2 事業所の業種は？ | | | |
|-------------|----|-------|---------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：5.31 |
| 製造業 | 70 | 21.94 | |
| 販売・サービス業 | 35 | 10.97 | |
| 金融業 | 10 | 3.13 | |
| 複合サービス業 | 7 | 2.19 | |
| 通信・IT関連業 | 6 | 1.88 | |
| 流通・運送行 | 6 | 1.88 | |
| 医療・福祉関連業 | 97 | 30.41 | |
| 自治体・同関連業 | 42 | 13.17 | |
| その他 | 46 | 14.42 | |

問2

*業種は、「医療・福祉関連」、「製造業」が多く、次いで「自治体・同関連」、「販売・サービス業」となっている。福祉関連施設の数が多かったための結果で、一般企業のみだと「製造業」、「販売・サービス業」、「金融業」の順となる。

【問3】貴事業所の従業員のうち、山形県出身者はおよそ何パーセントいますか？下記枠内に数値をご記入ください。

| |
|---|
| % |
|---|



問3








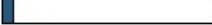




*どの業種においても 91~100%が多く、ほとんどの事業所の従業員が山形県出身者である。山形県出身者を優先して採用しているというわけではなく、結果的に山形県出身者の応募が多いためこのような構成になっている。

【問4】貴事業所では、大学の専門分野において特に重視するものはありますか。該当

する項目をマークしてください。(複数回答可)

- 語学・文学関係（史学、哲学等を含む）
- 心理学関係
- 社会学・福祉学関係
- 教育学・保育学関係
- 法学・政治学関係
- 経済学・経営学関係
- 理学・工学関係
- 医学・歯学・薬学関係
- 看護・医療技術関係
- 芸術学関係
- その他（ ）

【一般企業】

| 問4 貴事業所で大学の専門分野で特に重視するものは。 | | | |
|----------------------------|----|-------|--|
| 回答 | 頻度 | % | 平均値: - |
| 語学・文学 | 16 | 8.56 |  |
| 心理学 | 9 | 4.81 |  |
| 社会学・福祉学 | 23 | 12.30 |  |
| 教育学・福祉学 | 4 | 2.14 |  |
| 法学・政治学 | 22 | 11.76 |  |
| 経済学・経営学 | 78 | 41.71 |  |
| 理学・工学 | 89 | 47.59 |  |
| 医学・歯学・薬学 | 3 | 1.60 |  |
| 看護・医療技術 | 2 | 1.07 |  |
| 芸術学 | 12 | 6.42 |  |
| その他 | 36 | 19.25 |  |
| 無回答 | 4 | 2.14 |  |

【自治体】

| 問4 貴事業所で大学の専門分野で特に重視するものは。 | | | |
|----------------------------|----|-------|--------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均値: - |
| 語学・文学 | 2 | 9.09 | |
| 心理学 | 2 | 9.09 | |
| 社会学・福祉学 | 11 | 50.00 | |
| 教育学・福祉学 | 7 | 31.82 | |
| 法学・政治学 | 9 | 40.91 | |
| 経済学・経営学 | 8 | 36.36 | |
| 理学・工学 | 7 | 31.82 | |
| 医学・歯学・薬学 | 2 | 9.09 | |
| 看護・医療技術 | 3 | 13.64 | |
| 芸術学 | 1 | 4.55 | |
| その他 | 7 | 31.82 | |

【福祉】

| 問4 貴事業所で大学の専門分野で特に重視するものは。 | | | |
|----------------------------|----|-------|--------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均値: - |
| 語学・文学 | 4 | 3.64 | |
| 心理学 | 24 | 21.82 | |
| 社会学・福祉学 | 92 | 83.64 | |
| 教育学・福祉学 | 13 | 11.82 | |
| 法学・政治学 | 8 | 7.27 | |
| 経済学・経営学 | 5 | 4.55 | |
| 理学・工学 | 1 | 0.91 | |
| 医学・歯学・薬学 | 16 | 14.55 | |
| 看護・医療技術 | 63 | 57.27 | |
| 芸術学 | 1 | 0.91 | |
| その他 | 4 | 3.64 | |
| 無回答 | 2 | 1.82 | |
| 無効 | 0 | 0.00 | |

問 4

*一般企業は、「語学・文学」、「心理学」、「社会学・福祉学」に関心が低く、「経済学・経営学」が高い。「理学・工学」が最も高いのは製造業が多いためと考えられる。自治体は、

「社会学・福祉学」が最も高く、次いで「法学・政治学」、「経済学・経営学」が続く。福祉関係は、「社会学・福祉学」が 83.64%と極めて高く、関連する分野である「看護・医療技術」が 57.27%となっている。ただ、「心理学」も 21.82%と比較的関心が高い。

【問5】新学科(人間科学部人間関係学科)では次のような授業形態を予定しています。
期待されるものがあれば3つまで選んでマークしてください。

- 教室内で行う講義中心の授業
- 教室内で課題に取り組む演習型の授業
- 企業や役所で研修するインターンシップ型授業
- 共同で作業するグループワーク型授業
- さまざまな調査や観察をする調査型授業
- 地域社会の人たちから学ぶ社会体験型授業
- 語学研修や異文化体験学修を行う海外研修型授業
- 実験室で行う実験中心の授業
- その他 ()

【一般企業】

| 問5 新学科に期待する授業形態は？ (3つまで) | | | |
|--------------------------|-----|-------|----------------------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均値: - |
| 教室内で行う講義中心の授業 | 3 | 1.60 | <input type="text"/> |
| 教室内no演習型の授業 | 44 | 23.53 | <input type="text"/> |
| インターンシップ型授業 | 64 | 34.22 | <input type="text"/> |
| グループワーク型授業 | 74 | 39.57 | <input type="text"/> |
| 調査や観察をする調査型授業 | 57 | 30.48 | <input type="text"/> |
| 社会体験型授業 | 105 | 56.15 | <input type="text"/> |
| 海外研修型授業 | 40 | 21.39 | <input type="text"/> |
| 実験中心の授業 | 6 | 3.21 | <input type="text"/> |
| その他 | 4 | 2.14 | <input type="text"/> |
| 無回答 | 6 | 3.21 | <input type="text"/> |

【自治体】

| 問5 新学科に期待する授業形態は？（3つまで） | | | |
|-------------------------|----|-------|----------------------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均値: - |
| 教室内で行う講 | 0 | 0.00 | <input type="text"/> |
| 義中心の授業 | | | |
| 教室内no演習 | 2 | 9.09 | <input type="text"/> |
| 型の授業 | | | |
| インターンシップ型 | 9 | 40.91 | <input type="text"/> |
| 授業 | | | |
| グループワーク型 | 14 | 63.64 | <input type="text"/> |
| 授業 | | | |
| 調査や観察をす | 3 | 13.64 | <input type="text"/> |
| る調査型授業 | | | |
| 社会体験型授業 | 17 | 77.27 | <input type="text"/> |
| 海外研修型授業 | 3 | 13.64 | <input type="text"/> |
| 実験中心の授業 | 0 | 0.00 | <input type="text"/> |
| その他 | 0 | 0.00 | <input type="text"/> |

【福祉】

| 問5 新学科に期待する授業形態は？（3つまで） | | | |
|-------------------------|----|-------|----------------------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均値: - |
| 教室内で行う講 | 5 | 4.55 | <input type="text"/> |
| 義中心の授業 | | | |
| 教室内no演習 | 32 | 29.09 | <input type="text"/> |
| 型の授業 | | | |
| インターンシップ型 | 37 | 33.64 | <input type="text"/> |
| 授業 | | | |
| グループワーク型 | 60 | 54.55 | <input type="text"/> |
| 授業 | | | |
| 調査や観察をす | 28 | 25.45 | <input type="text"/> |
| る調査型授業 | | | |
| 社会体験型授業 | 87 | 79.09 | <input type="text"/> |
| 海外研修型授業 | 6 | 5.45 | <input type="text"/> |
| 実験中心の授業 | 1 | 0.91 | <input type="text"/> |
| その他 | 1 | 0.91 | <input type="text"/> |
| 無回答 | 0 | 0.00 | <input type="text"/> |
| 無効 | 1 | 0.91 | <input type="text"/> |

問 5

* どの事業所においてもトップは、「社会体験型授業」であり、次いで「グループワーク型

授業」、「インターンシップ型授業」となっている。ただ、一般企業と福祉関係は、「調査や観察をする調査型授業」も高く、さらに一般企業は、「海外研修型授業」にも比較的高い関心を持っている。

【問6】新学科（人間科学部人間関係学科）では次のような授業科目を予定しています。期待されるものがあれば3つまで選んでマークしてください。

- 異文化理解に関する科目
- 国際関係に関する科目
- 地域の産業の特性に関する科目
- 高齢者や社会的弱者の支援に関する科目
- 人間行動の心理に関する科目
- カウンセリングに関する科目
- コミュニケーション力を高める科目
- 語学力を高める科目
- 日本語の表現力を高める科目
- その他（）

【一般企業】

| 回答 | 頻度 | % | 平均値: - |
|--------------|-----|-------|--------|
| 異文化理解 | 25 | 13.37 | |
| 国際関係 | 38 | 20.32 | |
| 地域の産業の特性 | 91 | 48.66 | |
| 高齢者や社会的弱者の支援 | 21 | 11.23 | |
| 人間行動の心理 | 33 | 17.65 | |
| カウンセリング | 14 | 7.49 | |
| コミュニケーション力 | 133 | 71.12 | |
| 語学力 | 18 | 9.63 | |
| 日本語の表現力 | 20 | 10.70 | |
| その他 | 4 | 2.14 | |
| 無回答 | 7 | 3.74 | |

【自治体】

| 回答 | 頻度 | % | 平均値: - |
|------------------|----|-------|--------|
| 異文化理解 | 1 | 4.55 | |
| 国際関係 | 1 | 4.55 | |
| 地域の産業の特 性 | 11 | 50.00 | |
| 高齢者や社会的 弱者の支援 | 10 | 45.45 | |
| 人間行動の心理 | 1 | 4.55 | |
| カウンセリング | 2 | 9.09 | |
| コミュニケーション 力 | 21 | 95.45 | |
| 語学力 | 0 | 0.00 | |
| 日本語の表現力 | 2 | 9.09 | |
| その他 | 0 | 0.00 | |

【福祉】

| 回答 | 頻度 | % | 平均値: - |
|------------------|----|-------|--------|
| 異文化理解 | 6 | 5.45 | |
| 国際関係 | 3 | 2.73 | |
| 地域の産業の特 性 | 18 | 16.36 | |
| 高齢者や社会的 弱者の支援 | 82 | 74.55 | |
| 人間行動の心理 | 34 | 30.91 | |
| カウンセリング | 31 | 28.18 | |
| コミュニケーション 力 | 83 | 75.45 | |
| 語学力 | 1 | 0.91 | |
| 日本語の表現力 | 5 | 4.55 | |
| その他 | 0 | 0.00 | |

問 6

*どの事業所も圧倒的に「コミュニケーション力を高める科目」が高い。福祉関連と自治体は、これに次いで「高齢者や社会的弱者の支援」に関するものが高く、自治体と一般企

業は、さらに「地域の産業の特性を学ぶ科目」に関心が高い。これ以外に比較的高いのは、一般企業の「国際関係」、「人間行動の心理」、福祉関係の「カウンセリング」、「人間行動の心理」である。

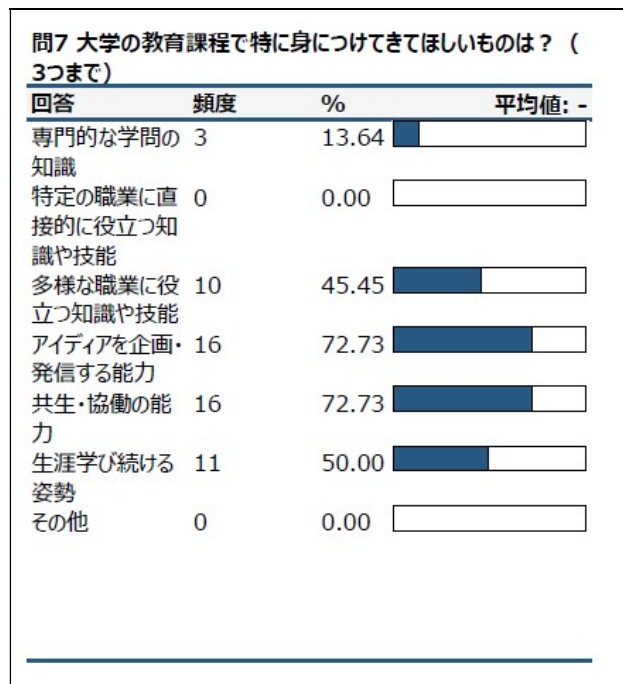
【問7】貴事業所では、大学の教育課程で特に身につけてきてほしいと考えるものがありますか。次の中から3つまで選んでマークしてください。

- 専門的な学問の知識
- 特定の職業に直接的に役立つ知識や技能
- 幅広く多様な職業に役立つ汎用的な知識や技能
- 自発的に意見・アイデアを企画・発信する能力
- 多様な人同士が助け合い補い合う共生・協働の能力
- 新しいことにチャレンジし生涯学び続ける姿勢
- その他（ ）

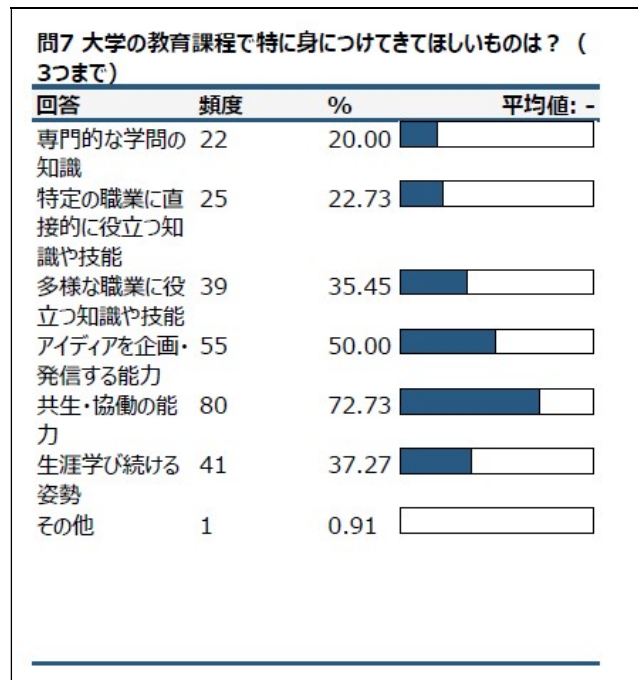
【一般企業】

| 問7 大学の教育課程で特に身につけてきてほしいものは？（3つまで） | | | |
|-----------------------------------|-----|-------|--------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均値: - |
| 専門的な学問の知識 | 41 | 21.93 | |
| 特定の職業に直接的に役立つ知識や技能 | 15 | 8.02 | |
| 多様な職業に役立つ汎用的な知識や技能 | 77 | 41.18 | |
| アイデアを企画・発信する能力 | 128 | 68.45 | |
| 共生・協働の能力 | 74 | 39.57 | |
| 生涯学び続ける姿勢 | 115 | 61.50 | |
| その他 | 4 | 2.14 | |
| 無回答 | 1 | 0.53 | |

【自治体】






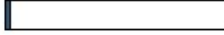



【福祉】



問 7

*一般企業と自治体は、「アイデアを企画・発信する能力」が最も高い。「共生・協働の

【福祉】

| 問8 特に期待される外国語は？（複数回答可） | | | |
|------------------------|----|-------|--|
| 回答 | 頻度 | % | 平均値: - |
| 英語 | 18 | 16.36 |  |
| 韓国語 | 5 | 4.55 |  |
| 中国語 | 11 | 10.00 |  |
| 上記以外の言語 | 4 | 3.64 |  |
| 特にない | 84 | 76.36 |  |
| その他 | 2 | 1.82 |  |
| 無回答 | 1 | 0.91 |  |

問8

* 「英語」が高く、次いで「中国語」であるが、福祉関係ではどの言語にも関心が低い。

【問9】貴事業所では、本学が設置を予定している「人間関係学科」に興味がありますか。該当する項目をマークしてください。

- 大いに興味がある
- 少し興味を感じる
- あまり興味を感じない
- まったく興味を感じない
- わからない

【一般企業】

| 問9「人間関係学科」に興味がありますか？ | | | |
|----------------------|----|-------|---------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：2.59 |
| 大いに興味がある | 24 | 12.83 | |
| 少し興味を感じる | 84 | 44.92 | |
| あまり興味を感じない | 45 | 24.06 | |
| まったく興味を感じない | 8 | 4.28 | |
| わからない | 24 | 12.83 | |
| 無回答 | 1 | 0.53 | |
| 複数 | 1 | 0.53 | |

【自治体】

| 問9「人間関係学科」に興味がありますか？ | | | |
|----------------------|----|-------|---------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：2.82 |
| 大いに興味がある | 1 | 4.55 | |
| 少し興味を感じる | 14 | 63.64 | |
| あまり興味を感じない | 1 | 4.55 | |
| まったく興味を感じない | 0 | 0.00 | |
| わからない | 6 | 27.27 | |

【福祉】

| 問9「人間関係学科」に興味がありますか？ | | | |
|----------------------|----|-------|---------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：2.17 |
| 大いに興味がある | 27 | 24.55 | |
| 少し興味を感じる | 62 | 56.36 | |
| あまり興味を感じない | 8 | 7.27 | |
| まったく興味を感じない | 1 | 0.91 | |
| わからない | 12 | 10.91 | |
| 無回答 | 0 | 0.00 | |

問 9

* 「大いに興味がある」、「少し興味を感じる」を併せると、一般企業が、58.29%、自治体が、68.19%、福祉関係が、80.91%となる。

【問 10】 貴事業所では、本学が設置を予定している「人間関係学科」で学んだ学生を採用してみたいと思われませんか。該当する項目をマークしてください。

- 大いにそう思う
- ある程度そう思う
- あまり思わない
- まったく思わない
- わからない

【一般企業】

| 問10 新学科で学んだ学生を採用したいですか？ | | | |
|-------------------------|----|-------|---------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：2.91 |
| 大いにそう思う | 17 | 9.09 | |
| ある程度そう思う | 81 | 43.32 | |
| あまり思わない | 36 | 19.25 | |
| まったく思わない | 8 | 4.28 | |
| わからない | 45 | 24.06 | |
| 無回答 | 0 | 0.00 | |

【自治体】

| 問10 新学科で学んだ学生を採用したいですか？ | | | |
|-------------------------|----|-------|---------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：3.33 |
| 大いにそう思う | 3 | 13.64 | |
| ある程度そう思う | 7 | 31.82 | |
| あまり思わない | 1 | 4.55 | |
| まったく思わない | 0 | 0.00 | |
| わからない | 10 | 45.45 | |
| 無回答 | 1 | 4.55 | |

【福祉】

| 問10 新学科で学んだ学生を採用したいですか？ | | | |
|-------------------------|----|-------|---------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均：2.44 |
| 大いにそう思う | 33 | 30.00 | |
| ある程度そう思う | 45 | 40.91 | |
| あまり思わない | 6 | 5.45 | |
| まったく思わない | 0 | 0.00 | |
| わからない | 25 | 22.73 | |
| 無回答 | 1 | 0.91 | |

問 10

*一般企業は、「大いにそう思う」「ある程度そう思う」合わせて 52.41%、自治体は、同じ2項目合わせ 45.46%、福祉関係は、同じく合わせて 70.91%となり、採用に関する期待が確認できる。

【問 11】 貴事業所では、以下の資格の中で、特に有益と考えるものはありますか。該当する項目をマークしてください。（複数回答可） *各資格の概要は最終頁をご参照ください。

- ビジネス実務士
- 情報処理士
- 図書館司書
- 認定心理士
- 公認心理師（国家試験受験資格）
- 社会福祉士（国家試験受験資格）

【一般企業】

| 問11 有益と考える資格は？ | | | |
|----------------|----|-------|--------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均値: - |
| ビジネス実務士 | 95 | 50.80 | |
| 情報処理士 | 97 | 51.87 | |
| 図書館司書 | 2 | 1.07 | |
| 認定心理士 | 15 | 8.02 | |
| 公認心理師 | 11 | 5.88 | |
| 社会福祉士 | 12 | 6.42 | |
| 無回答 | 36 | 19.25 | |

【自治体】

| 問11 有益と考える資格は？ | | | |
|----------------|----|-------|--------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均値: - |
| ビジネス実務士 | 6 | 27.27 | |
| 情報処理士 | 8 | 36.36 | |
| 図書館司書 | 3 | 13.64 | |
| 認定心理士 | 1 | 4.55 | |
| 公認心理師 | 2 | 9.09 | |
| 社会福祉士 | 15 | 68.18 | |
| 無回答 | 2 | 9.09 | |

【福祉】

| 問11 有益と考える資格は？ | | | |
|----------------|-----|-------|--------|
| 回答 | 頻度 | % | 平均値: - |
| ビジネス実務士 | 4 | 3.64 | |
| 情報処理士 | 9 | 8.18 | |
| 図書館司書 | 1 | 0.91 | |
| 認定心理士 | 14 | 12.73 | |
| 公認心理師 | 13 | 11.82 | |
| 社会福祉士 | 107 | 97.27 | |
| 無回答 | 2 | 1.82 | |

問 11

*一般企業は、「ビジネス実務士」、「情報処理士」が高く、自治体と福祉関係は、「社会福祉士」が非常に高い。ただ、自治体では、「ビジネス実務士」、「情報処理士」も比較的高い関心を示している。

本学に対するご意見・ご要望があればお書きください。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。

【資格の概要】（問 11 に関する資料です）

* ビジネス実務士

全国大学実務教育協会によって認定される資格。ビジネス実務全般に関する基礎的な知識とスキル、またキャリアデザインの意義について学ぶ。

*** 情報処理士**

全国大学実務教育協会によって認定される資格。PC を中心としたビジネスの基本的な情報処理技能を身に付ける。

*** 図書館司書**

図書館法に定められた国家資格。図書館で働くために必要な専門的な知識と情報、サービスを身に付ける。

*** 認定心理士**

心理学の専門家として仕事をするために必要な、最小限の基礎学力と技能を習得していることを示す資格で、公益社団法人日本心理学会によって認定される。心理学科卒業と見なされ、心理学系の大学院を受験することや心理職に応募することが可能になる。資格取得のために心理学系の科目を多数受講することで、心理学の基本を広く学びながら心理学が持つさまざまな側面を知ることができる。

*** 公認心理師**

平成 29 年 9 月に公認心理師法の施行により認められた新しい国家資格であり、今後心理専門職に就くためには欠かせないものになると予測される。国家試験受験資格の取得は、広範囲な心理学の専門単位を取得することで得られるが、国家試験受験のためには、公認心理師法に定める科目に対応する大学院で更に学ぶか、2 年間の実務経験のどちらかが必要となる。

*** 社会福祉士**

福祉に関する専門的な知識および技術を持ち、心理的・身体的・経済的に困難な方からの相談を受け、問題解決への援助をはじめ、医療機関や施設との橋渡しを務めるソーシャルワーカーになるための資格である。社会福祉施設をはじめ、行政・医療・教育など、さまざまな現場が活躍の場となる。必要単位取得後は、国家試験受験資格を取得できる。

結果について

1、重視する専門分野と期待する授業科目の関係

問4の重視する専門分野については、「理学・工学」を除くと「経済学・経営学」が高いが、問6の期待する授業科目では、「コミュニケーション力を高める科目」がきわめて高い数値となっている。文科系の専門分野には関心は高くないが、養成する能力にコミュニケーション力が掲げられる学科への関心は見込まれる。問9の人間関係学科への関心に対する回答もそれを伺わせる。

2、身につけてほしいものと期待する授業形態について

問7の大学の教育課程で身につけてほしいものについては、企画力・構想力と生涯学び続ける姿勢に関心が高い。特定の知識やスキルよりも多様な局面に対応し、課題解決に向かえる能力と姿勢が必要とされているといえる。それらを養成するには、授業形態として問5にあるように、「社会体験型授業」「インターンシップ型授業」等々の実践的な活動重視型というべき授業が望ましいととらえていることがわかる。

3、外国語と資格について

問8の期待される外国語については、「英語」以外は関心が高くない。しかし、その他の自由記述には多種の外国語が記されており、外国人材の受け入れなども含めて事業所の現状は多言語化しつつあると推測される。多言語、多文化間でのコミュニケーション力が期待されるはずである。資格については一般企業では特定のものはないが、自治体や福祉関係では社会福祉士への関心が高い。自治体はもちろん、福祉施設も地域の問題解決に当たる局面が将来的に増えると予想され、そのために社会福祉の観点が必要であるとの認識の表れであろう。

4、人間関係学科への期待について

問10の採用に関する意欲は、各事業所とも一定程度認められる。上記の結果からいえるのは、採用は、あくまで期待される学修とその結果としての身につけた能力・姿勢にかかっているということであり、専門分野の種類によるわけではない。コミュニケーション力、企画力、構想力等々、期待される能力を備えた人材育成を目指す教育が目に見える形となっていることが重要である。

【事業所自由記述】

【問4】「貴事業所で大学の専門分野で特に重視するのは」

その他（自由記述）

「一般企業」

- ・特になし（学部不問です）（17件）
- ・特になし。品質管理部門に配属する場合、管理栄養士を募集するが、他は関係なし
- ・全学部
- ・すべての分野
- ・採用の場合は、出身学部より人間性とその後の伸びしろを重視
- ・情報通信、デジタル（プログラミング）
- ・情報システム関係
- ・IT
- ・農学
- ・造園、農学、林学
- ・栄養関係、農学部関係
- ・栄養学関係
- ・建築工事、施工管理、積算業務
- ・電気工学
- ・電子工学科など
- ・化学
- ・大卒の求人はありません

「自治体」

- ・職種により異なるが、行政職では特に重視するものはない。
- ・特になし（5件）

「福祉関係」

- ・社会福祉、介護
- ・介護関係
- ・三科目主事がとれるような科目単位がとれると助かります。

【問5】「新学科に期待する授業形態は？」

その他（自由記述）

「一般企業」

- ・専門資格のスキルを取得、合格するような講義内容
- ・特になし

「福祉関係」

- ・学生が講師となり他の学生に講義を行う授業。

【問6】「新学科で期待する科目は？」

その他（自由記述）

「一般企業」

- ・特になし（2件）

「福祉関係」

- ・相手を思いやる心を育む授業科目。

【問7】「大学の教育課程で特に身につけてきてほしいものは？」

その他（自由記述）

「一般企業」

- ・「コミュニケーション力の向上」
- ・資格、免許の取得
- ・専門性よりも総合的なモノの見方、考え方を重視

「福祉関係」

- ・日頃からプラスの言葉を発する能力。

【問8】「特に期待される外国語は？」

その他（自由記述）

「一般企業」

- ・ベトナム語（4件）

- ・スペイン語
- ・タイ語（2件）
- ・インドネシア語
- ・業務に応じて、英語、中国語

「自治体」

- ・ロシア語、オランダ語、ブルガリア語

「福祉関係」

- ・ベトナム語（3件）
- ・タガログ語（2件）
- ・日本語（のうちプラスの言葉力）

【本学へのご意見・ご要望】

「一般企業」

- ・人間科学部の新設、大いに期待しております。
- ・新学科の目指すものが伝わってこない。
- ・期待が大、祈る成功を!!
- ・機械、建築関係のカリキュラムもあればと考えます。
- ・貴大学のある南山形地区に居住していますので、谷柏の田植え踊りの復活の活動などに大変感謝しています。また、地域に密着した取り組み（西川町大井沢地区）も高く評価しています。弊社では民話の番組に出演していただいておりますが、こうしたことを通じて社会力、コミュニケーション力をもっと磨いていただきたいと思えます。
- ・創造性豊かな人材（自分で考える力）を育てて下さい。
- ・産業界がグローバル化しており、海外で活動できる人材が必要になっています。
- ・基礎学力は大学で大幅に向上するものではないので、大学生活の4年間で仕事の厳しさを乗り越える準備をさせていただきたい。場合によってはアルバイト先で身につけた事のほうが有意義となる位であり、地方の特色を活かしたカリキュラムで有能な社会人を育成して下さい。
- ・将来、メンタルに関する部門を考えている。担当者としては有益な学部だと思う。
- ・特にありません。(2件)
- ・ITツールを活用し、ビジネスプロセスの改革や、新しいマーケティング、販促手法やSNS時代に適合した新しい広告、宣伝手法を展開できる能力委のある人材輩出

を求めたい。ビジネス手法のモデルは海外の方が先端を行っており、海外に目を向けるためにも英語能力は必修。

- ・ ネット社会に生きる若者は常に何を考えているのかと思っております。
- ・ 地域社会と関わりの深いカリキュラム編成と、探究型学習をメインとした学校でありたい。
- ・ 大企業、中小企業問わず、企業への積極的なインターンシップの実施をお願いします。
- ・ 製造業の会社が文系学部卒の社員に求める仕事は、経理（会計、原価管理）、総務人事（衛生管理、産業カウンセラー）が主です。これに加え対人関係が得意であれば営業職も考えられます。数学に強い方は企業で活躍の機会が多く、これに加えて課題を能動的に解決する力があれば、出世して、より責任のあるポジションを獲得できると考えます。お役に立てる意見かわかりませんが、何卒よろしくお願い申し上げます。
- ・ 現実的には採用は無理（来てもらえない）とあきらめています。
- ・ 地元に残り、山形県を担う学生を育てて頂きたいと思えます。
- ・ ある程度専門的に実社会で即戦力で働けるところを身につける様、指導して下さい。そうでないと、何をやって良いのかわからず、自信のない卒業生など、肩身の狭いかわいそうな形になります。

「自治体」

- ・ 特にありません。

「福祉関係」

- ・ 学生の就職先を考えると何か資格をもっていた方が有利だと思います。長く働いていくためにも将来役立つ知識と資格を習得して下さい。
- ・ 山形県内において福祉系の養成校が少ないため、介護職の確保が困難になっている。ぜひ貴校にて介護の仕事の魅力ややりがいを伝えていただき、学生さんの学びを深め社会に送り出してほしいと思う。貴校のますますの発展を祈念しております。
- ・ 社会福祉分野の授業もしてもらいたい。
- ・ 今後とも優秀な人材の育成を期待しております。
- ・ インターンシップや実習の際には、ぜひ当法人を選んでいただければありがたいです。
- ・ 心理学・福祉学・看護・医関係に長けている分には頼もしいが、一般教養等も持ち合わせてもらいたい。

- ・人口減少と少子高齢化、過疎化、孤立化などが同時進行する地域社会では、さまざまな福祉課題が顕在化してきています。その観点から、新学科の教育目標「地域社会の共生・協働に資する人材を育てる」の実現を期待します。
- ・新たな学科の設置ということで、地元の大学として今後益々人材育成にも力を入れられ、卒業後は各方面で活躍されることを期待しております。建学の精神や法人の沿革など懐かしく拝見致しました。卒業生の一人として、貴学の益々の発展をお祈り申し上げます。
- ・新学科に期待しております。多様化している世帯に対する相談支援。困窮等様々な事例が発生しています。セイフティネットを理解出来る人材を求めます。
- ・少子高齢化を伴う人口減少が続くと見込まれる社会の中、福祉関係では深刻な人材不足が懸念されております。ぜひ、福祉の道を志す若者の育成にご尽力賜りますようお願いいたします。
- ・特になし。

東北文教大学人間科学部における 新学科設置に関するアンケート調査票

変化の激しい現代社会において、職場のみならず地域の生活においても、高度な知識とそれを活かすコミュニケーション能力や課題発見・解決能力などが必要といわれています。東北文教大学はそうした能力を身に付け、地域で活躍できる人を育てたいと考え、人文社会系の新しい学科の設置を計画しています。

このアンケートは、新学科の内容に関して**事業所のみなさまのお考えをお聞きし、設置計画の基礎資料とさせて頂くものです。みなさまのご協力をお願いします。**

なお、調査票は無記名です。回答の記入はマークシート方式ですので、記入上のお願いをよく読んで回答してください。また、調査結果は統計資料としてのみ用い、他の目的に使用することはありません。

■新学科の概要

○新学科名＝人間関係学科

○教育目標＝複雑化する現代における人間関係について理解する力と人間関係を構築していく力を養い、地域社会の共生・協働に資する人材を育てる。

○3つのコース＝人間関係学科には、3つのコースを設ける。

東北文教大学

└人間科学部

└子ども教育学科（既存学科）

└人間関係学科（新学科）

└◎心理総合コース

心理学を通して人間行動をより広く理解し、多様な局面に応用できる力を養うコース

└◎言語コミュニケーションコース

グローバル化や多文化共生に対応する語学力や異文化理解の能力を養うコース

└◎福祉マネジメントコース

社会福祉の知見を活かし地域社会をコーディネートする力を養うコース

共通質問の高校生と事業所の比較

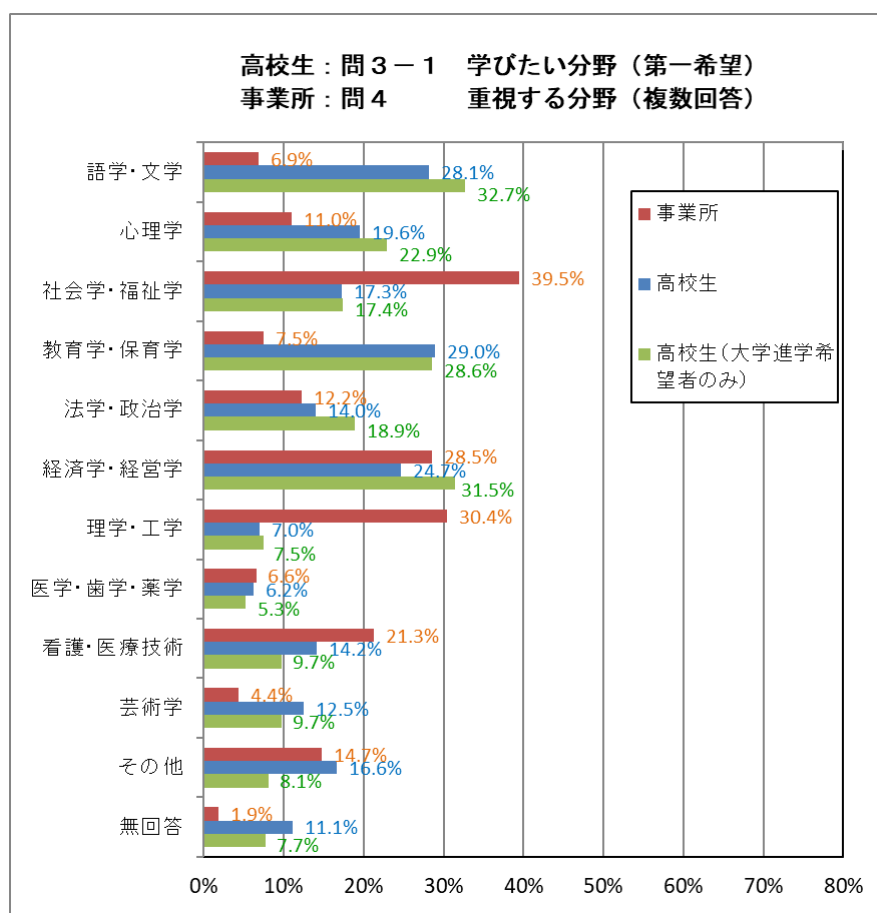
《比較1》

- ・高校生対象

【問3】あなたが進学し、学びたいと考えている分野を次の中から第2希望までマークしてください。(第1, 2希望の回答数を回答者数から%に表した)

- ・事業所対象

【問4】貴事業所では、大学の専門分野において特に重視するものはありますか。該当する項目をマークしてください。(複数回答可)



結果

事業所は、「社会学・福祉学」が高い（39.5%）が、これは福祉関係（83.64%）と自治体（50.00%）の数値が高いためである。それ以外では、「経済学・経営学」（28.5%）が高く、高校生もこの項目は比較的高い。この分野に関連する知識やスキルを取り込んだ教育に需要があるものと考えられる。

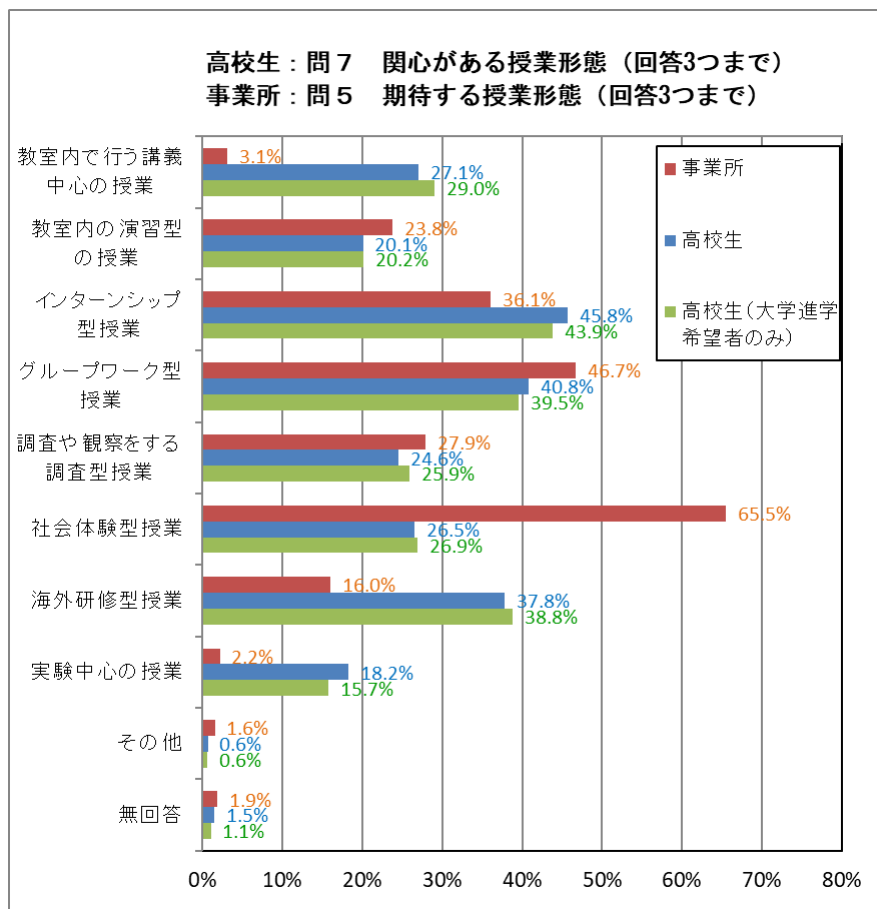
《比較2》

- ・高校生対象

【問7】新学科（人間関係学科）では次のような授業形態を予定しています。関心があるのはどれですか。次の中から3つまでマークしてください。

- ・事業所対象

【問5】新学科（人間科学部人間関係学科）では次のような授業形態を予定しています。期待されるものがあれば3つまで選んでマークしてください。



結果

「インターンシップ型授業」と「グループワーク型授業」は高校生、事業所ともに高い関心を示している。後者はコミュニケーション力の習得を求めてだろう。差が大きいのは、「社会体験型授業」で事業所の65.5%は突出しており、高校生の26.5、26.9%を大きく上回る。これと「教室内で行う講義中心の授業」の差（事業所3.1%、高校生27.1、29.0%）を重ねると事業所が講義形式で学ぶことに積極的な意義を見出しておらず、社会体験を通じて学ぶ、つまり、「今、ここにある現実」と向き合った、より実際的な知識の習得を求めていることがうかがわれる。「インターンシップ型授業」に対する高校生の関心の高さを考えれば、ボランティアなどの社会貢献的な事業を体験的に学ぶプログラムや地域社会の実

状を、フィールドワークなどを通じて知るプログラムなどが考えられる。

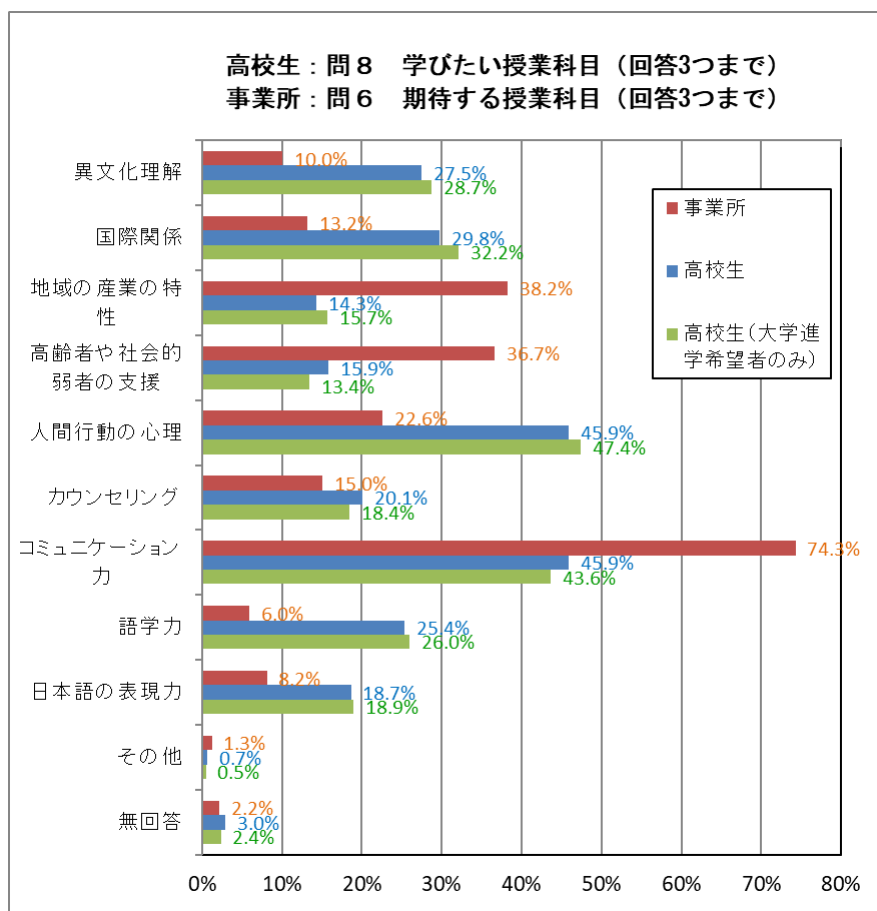
《比較3》

- ・高校生対象

【問8】新学科（人間関係学科）では次のような科目を予定しています。学んでみたい科目があれば、次の中から3つまでマークしてください。

- ・事業所対象

【問6】新学科（人間科学部人間関係学科）では次のような授業科目を予定しています。期待されるものがあれば3つまで選んでマークしてください。



結果

事業所で突出して高いのが「コミュニケーション力」の74.3%であり、最も重要であることが確認できる。高校生も「コミュニケーション力」は高い（45.9、43.6%）が、「人間行動の心理」も同じく高く（45.9、47.4%）、事業者は22.6%と低い。数値としては30%弱だが、同じように高校生が高く、事業者が低い項目に「異文化理解」と「国際関係」「語学力」が上げられる。前項（比較2）にある「海外研修型授業」に事業者が関心を示していないことと通じる点がある。事業者側には海外研修や語学学修への期待が薄い、語学力

の需要がないわけではない。事業所が期待するより実践的な語学力や関係構築力を身につけられる授業であれば、これらの項目に高校生も比較的関心が高いことから、有益な科目となると考えられる。

事業所の数値が高いものとして他には、「地域の産業の特性」(38.2%)と「高齢者や社会的弱者の支援」(36.7%)に関する授業がある。高校生の関心はいずれも低いですが、社会体験型授業と組み合わせてプログラムを組むことが考えられる。これらの授業が事業所にアピールするものとなると考えられる。

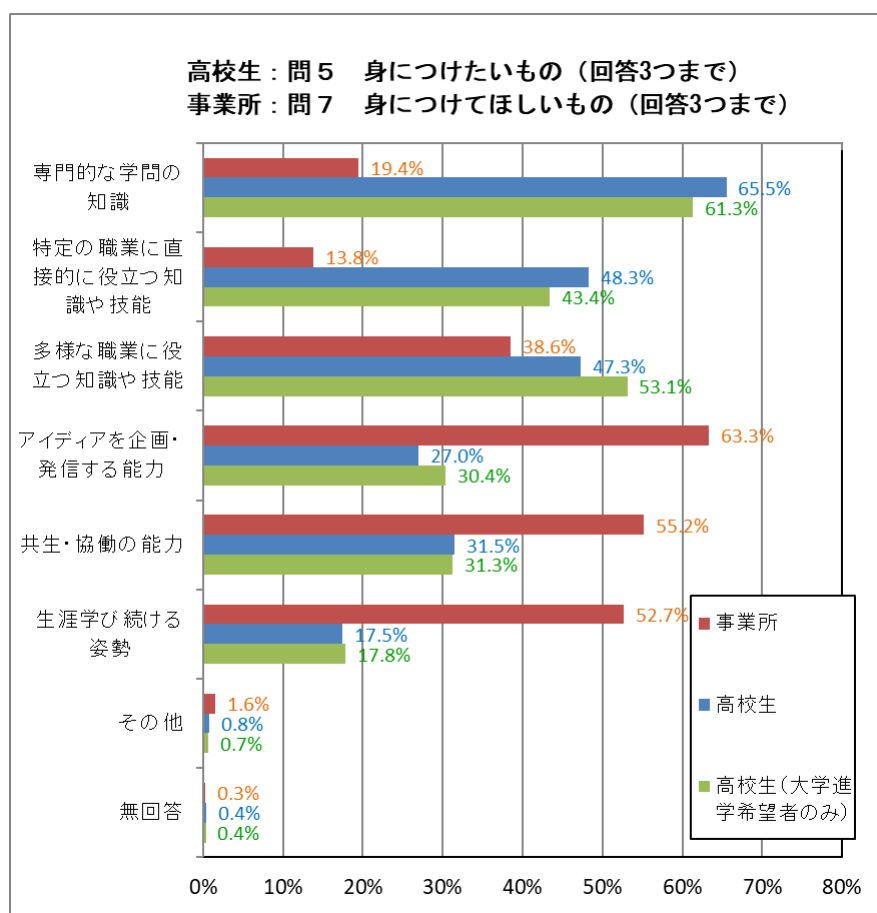
《比較4》

- ・高校生対象

【問5】あなたが進学して身に付けたいと思うものは何ですか。次の中から3つまでマークしてください。

- ・事業所対象

【問7】貴事業所では、大学の教育課程で特に身につけてきてほしいと考えるものはありますか。次の中から3つまで選んでマークしてください。



結果

高校生は、いずれも「専門的な学問の知識」に高い数値（65.5%、61.3%）を示し、専門的な学問への関心を示している。しかし、事業所は、19.4%と関心が低い。自由記述などにも見られるように事業所側は、専門分野へのこだわりはなく、あくまで人物本位、能力本位であることがうかがわれる。それは、「アイデアを企画・発信する能力」63.3%、「共生・協働の能力」55.2%などの数値に表れている。また、注目すべきは、事業所が「生涯学び続ける姿勢」に52.7%であるのに対して、高校生は、17.5、17.8%と差が大きい点である。総

じて、事業所側は、激しい時代の変化に対応してアイデアや企画などの創造性と常に学び続けることを重視しているといえる。専門的な学問の知識に関心を示す高校生と創造性や持続的な学習的態度を重んじる事業所のギャップを埋めるには、専門的な学問の知や探究方法にふれつつ、現実的、社会的な場における創造的な発想を喚起する教授方法を取り入れることと考えられる。専門的な学問分野の学修によって、生涯学ぶ姿勢の軸となるものを形成し、同時にその学修が自己の多様な生の局面に適応させていけるような生きた教養となるような教育のプログラムが求められている。

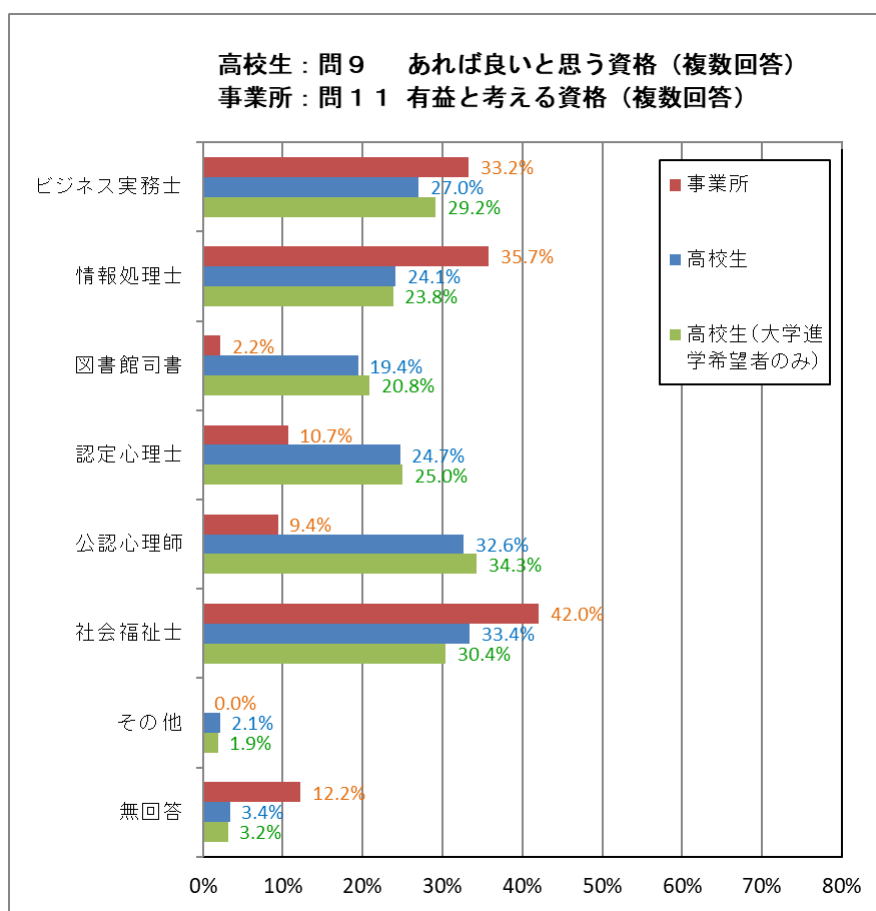
《比較5》

- ・高校生対象

【問9】新学科（人間関係学科）で取得できる資格として、あればいいと思うのはどれですか。次の中からマークしてください。（複数回答可）

- ・事業所対象

【問11】貴事業所では、以下の資格の中で、特に有益と考えるものはありますか。該当する項目をマークしてください。（複数回答可）



結果

事業所の「社会福祉士」が高い（42.0%）のは、福祉関係（97.27%）と自治体（68.18%）の数値が高いためである。本学に併設する短期大学部には介護福祉士養成の人間福祉学科があり、それと併せて社会福祉士養成への期待が高いことがわかる。（自由記述も参照）高校生は、およそどの資格にも一定の関心を示しているが、事業所は、「公認心理師」（9.4%）、「認定心理士」（10.7%）、「図書館司書」（2.2%）には関心が低く、「ビジネス実務士」（33.2%）、「情報処理士」（35.7%）には比較的関心が高い。ここからは高校生の資格志向がうかがわ

れると同時に、これといった特定の資格に注目が集まるわけではなく、社会福祉士や公認心理師など社会的通用性の高い資格に若干数値が高いことが認められる程度であるといえる。したがって、資格は、あくまで学修の結果として取得が可能とする位置づけであればよく、目的養成的な観点からの資格導入は考えなくともよい。